

令和元年 8 月 8 日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日 時	令和元年 8 月 8 日（木） 午前 9 時 30 分					
場 所	教育委員会室					
開 会	午前 9 時 30 分					
閉 会	午後 4 時 10 分					
出席委員						
教 育 長	加	藤	裕	之		
委 員	阿	部	博	道		
委 員	坂	根	慶	子		
委 員	淺	松	三	平		
委 員	白	石	祐	一		
説明のために出席した職員						
教育委員会事務局次長	青	木	剛			
教育委員会事務局参事 （庶務課長事務取扱）	宮	本	知	幸		
学 務 課 長	西	村	克	己		
指 導 室 長	横	山	圭	介		
すみだ教育研究所長	石	原	恵	美		
地域教育支援課長	石	岡	克	己		
ひきふね図書館長	高	村	弘	晃		

2 議題について

議決事項

- 第1 議案第 28 号 令和 2 年度使用墨田区立小学校教科用図書採択について
- 第2 議案第 29 号 令和 2 年度使用墨田区立中学校教科用図書採択について
- 第3 議案第 30 号 特別支援学級用教科用図書採択について

3 会議の概要について

- **教育長** それでは、教育委員会を開会します。本日の会議録署名人は、坂根委員にお願いします。本日は、議決事項3件を予定しております。まず日程に先立ち、会議の傍聴の取り扱いについてお伝えします。本日の会議は、傍聴希望者が多いと予想されたことから、教育委員会室よりも広いこの第2委員会室を会場とさせていただきました。本委員会の傍聴につきましては、墨田区教育委員会会議傍聴規則第3条第1項の規定により、定員は9人としておりますが、本日の会議については、同条第2項の規定により一般傍聴を40人までとし、そのほかに区議会議員の方及び報道関係の方の傍聴も認めることといたしましたので、ご承知おきください。

議決事項第1・・・28-1～28-2

議案第28号「令和2年度使用墨田区立小学校教科用図書採択について」を上程し、指導室長が資料のとおり説明する。

- **教育長** 審議に入る前にこれまでの経過等について確認させていただきます。墨田区立小中学校教科用図書採択事務取扱要項に基づき、4月25日から6月7日までの間、教科用図書調査委員会を設けて専門的な調査を行うとともに、6月4日から7月3日までの間、ひきふね図書館及び緑図書館にて教科用図書を展示してご来場された区民の方々からもご意見をいただきました。5月16日から6月10日までの間には、学校の教員向けに教科用図書の展示会を複数設けて展示し、学校ごとの意見を集約し、調査報告書を受け取りました。また、6月17日に教科用図書採択検討委員会を立ち上げ、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民の方々からの意見を参考として7月9日までに計5回の検討委員会を開催し、全ての教科用図書について検討を行いました。そして、7月18日に本検討委員会から報告書を受け取りました。さらに、委員の皆様には、全ての教科用図書を実際に手にして教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民の方々からの意見、評価用図書採択検討委員会報告書等にも目を通していただきながら教科用図書の採択に当たり、検討していただいたところです。なお、本日の会場に教科用図書を用意しておきますので、必要に応じてご確認くださいながら審議をお願いします。次に審議の順番ですが、ここから順次11教科13種目について審議をします。なお、各教科等の審議の冒頭に学習指導要領に定める教科ごとの改訂のポイント等について、指導室長から説明をします。また、時間の都合上、採択の審議中に事

事務局側で教科書図書の入れかえを順次行いますので、あらかじめご了承ください。今回の教科用図書採択は、小学校学習指導要領の改訂を受けて行うものですので、初めに事務局から新しい学習指導要領の特徴について説明をします。では、指導室長、お願いします。

- **指導室長** 平成29年3月に告示された小学校学習指導要領では、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等の3つの柱として示し、各教科等の目標及び内容をこの3つの柱で再整理しています。また、各教科等の指導においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるものとし、言語活動や観察、実験、問題解決的な復習の質を向上させることなどが求められています。さらに、より良い学校教育を通してより良い社会をつくるという理念を学校と社会が共有するために、それぞれの学校において社会との連携及び協働により資質・能力の向上を図っていく社会に開かれた教育課程の実現を目指すことなどが特徴となっています。発達の段階に応じた情報活用能力を体系的に育成する観点から、小学校では文字入力やデータ保存などに関する技能の確実な習得を図るとともに、子どもたちが将来どのような職業につくとしても時代を超えて普遍的に求められるプログラミング的思考を育む教育も新たに取り入れられました。これらは全ての教科等において求められている内容となります。さらに、これまで小学校高学年で行われてきた外国語活動や新たな教科、外国語科として加えられています。今回の教科用図書改革においては、これらの視点を踏まえたと審議をお願いします。
- **教育長** それでは、審議に移りますが、その前に教科書の選定の仕方についてお話をしたいと思います。数社の教科書がありますが、選定のためのポイントについて、1社1社確認するのではなく、委員が推薦するものについて、まず1社を挙げていただいて、そのポイントを挙げていただきたいと思います。もしその説明の中で数社を比較したり、考慮しなければいけない場合は、説明していただいて構いません。このような方針でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** では、審議に移ります。初めに、国語科について審議します。それでは説明をお願いします。
- **指導室長** 国語科の目標は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

「日常生活に必要な国語について、その国質を理解し適切に使うことができるようにする」「日常生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」「言葉が持つよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」となっています。この3つはいずれも先ほどご説明しました知識及び技能、思考力、判断力、表現力等学びに向かう力、人間性ともに対応したものとなっており、各教科の目標はいずれもこの形で示されています。国語科において理解したり表現したりするために必要な語句を身につけ、話や文章の中で使うことを通して五感を磨き語彙を豊かにする指導や我が国の言語文化に関する指導について改善、充実することが重視されています。国語につきましては、現在使用している教科用図書は、教育出版株式会社です。全4社からの採択をお願いします。

- **教育長** それでは、国語科の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をお願いします。
- **坂根委員** 傍聴の皆様、本日は暑い中お越しいただきありがとうございます。どうぞ皆さん適宜上着をお取りになり、水分補給をなさってください。

国語科は個々の目標が広範囲にわたっており、執筆の皆様方は苦労されたと思います。どの教科書も大変よくできているというのが私の感想です。まず、その内容に入る前に私の言語観を少しだけ述べます。ご存じのように私たちは言語によって物を考えています。私の場合は母語である日本語によって考え、計算し、情報を伝えるという活動をしています。つまり、言語活動なしで何かすることは難しいのです。そのため言語教育は学校の場合は国語教育のことですが、教育の基幹科目の一つとみなされています。その点から言いますと、日本語が母語であるということの利点は、自然に理解できて発達段階によって伸びることです。欠点は、母語だから関係的に捉えるとか、外からの視点で見るのが難しいことです。そこで私は、国語科の教科書を選ぶに当たって、何となく使って理解している日本語を、より有効的・発展的に自分のものにしていくということで考えました。また、本区の学習状況調査では国語力が伸びてきています。それを考慮して、国語の教科書には光村図書を推薦します。その理由は、学習項目が体系的に考えられていて、無理なく発達段階の次の段階につながっているということです。また、これは大事な点ですが、学習項目について「なぜこれを学習するのか」という理由や動機づけが、子どもにもわかるよう明確になっています。また、言語活動を行うときの注意点が示されていて、知識技能の習得の発展的要素、つまり児童が学びに向かう力を考えて作られている、以上の3点です。

具体的なことを申し上げたいと思いますが、全部の教科書を比較することができませんので、かいつまんで言います。まず「漢字の成り立ち」の学習項目は一方で興味をもつ項目ですが子どもが最初につまずきやすいところです。大体の教科書は「山」という漢字は山の形からできたと、まず漢字の持つ意味から説明します。しかし光村図書は、初め漢字は簡単な絵のようなもので、山の姿から山という、なぜ漢字が出来たかということから説明しています。また、文字の音訓についてですが「漢字の読み方には音と訓があります」というのが大多数の教科書の説明ですが、光村図書は次のようになっています。「漢字はるか昔に中国で生まれました。一方、日本にはもともと文字がありませんでした。そこで昔の日本人は中国の漢字を使って日本語を書きあらわせるようにしました」と3年生の上巻に書いてあります。つまり「日本に文字がなかった、そこで中国で生まれた漢字を使うようになった」と、考え方が体系的で次につながっている。これが大事な点です。5年生に関しては、象形・指事・会意・形声ということが欄外に書いてあります。つまり漢字学習は文字を書くことが中心ではなく、語彙を増やすことにつながると示唆しています。語彙は考え方を発展させるものにもなっているので、こういう導入は大変すぐれています。このようなことは他社の教科書にももちろん書いてありますが、詳し過ぎたり、または足りなかったりしています。

次に、教材の内容について申し上げます。我が国の言語文化に関することを身につけるということで、3、4年生でやさしい文語調の短歌や俳句を音読、暗唱したりなどして、言葉の響きやリズムに親しむということが学習指導要領にあります。そこで3年生で俳句が扱われています。俳句は我が国の言語文化ですが、取り上げた俳句の数を調べたら3年の上と下で、10句から15句扱っている教科書が多いですが、光村図書は6句です。そのなかで芭蕉が2句、蕪村が2句、一茶が2句で、「古池や...」とか「閑さや...」と誰が聞いても説明なしでわかるものです。句数が多すぎると、教師がその言葉の説明をすることに視点がいきますので、この段階ですぐにわかるものを導入することが必要だと思います。もちろん学年が上がるとほかの俳句もどんどん学んでいきます。そして5年生では「俳句は17音という短い音の中で表現します。様子や詠み手の気持ちを言いあらわす言葉はできるだけ使わずに表現しましょう」、「俳句には季語が必要です」と、ここで詳しい説明をしています。こうしたことはどの教科書でも言っていますが、体系的に述べられていることが重要なのです。なぜこういうことを言うかということ、日本の俳句は世界的な文学だからです。短歌や詩は残念ながらそうではありません。その理由がここにあるのですが、そ

れに触れていることが必要と考えます。

次に、文学的教材についてですが、世界的作家の宮沢賢治の作品が、4社とも5年生、光村図書は6年生で取り上げています。「注文の多い料理店」が2社、「雪わたり」が1社、光村図書は「やまなし」です。東京書籍等には付録に作家の経歴が書いてありますが、光村図書は宮沢賢治の生涯ということで、イーハトーブの地図等も詳しく書いてあります。宮沢賢治の作品だけではなく、その生涯を知ることは発展的な学習につながっていくのではないかと考えます。

論理的思考について申し上げます。意見文は非常に重要な項目です。各社モデル文を使っていますが、光村図書と学校図書は新聞の投書らしきものを使っています。特に光村図書は11歳の女の子の投書らしきものを使っています。教育出版は「白神山地からの提言」というものを使って意見を書いています。新聞記事、グラフ、旅行者、小学生の感想などを使っています。多岐にわたって読解をして資料を調べグループで考える意見文の作成は、結果としては素晴らしいのですが、モデル文を使い過ぎると、児童の発話や発展的な考える力を伸ばせるかどうか疑問です。もう一点申し上げますと、この論理的な意見文を書くときに、事実と意見の区別をはっきり提示してある教科書は一つありません。これは日本の言語教育で一番不足しているところだと思いますが、事実と意見の違いをはっきり提示してから意見文に進むのが順当ではないかと思います。

次に、アンケートを用いた学習項目について申し上げます。アンケートは何のためにするのか光村図書の4年生に書いてあります。何のためかというと、他の人の考え方を知するためです。これは当たり前のことですが、ただアンケートをしましょうというのではなく、何のためにするのか、ここから始めるのが大事です。そのほかに出典の書き方ですが、学校図書の5年生の下巻、重松清さんのところですが、この教材は作者の了解を得て作品の一部を省略してあります。光村図書の4年生の下は「ウナギのなぞを追って」という塚本さんの文ですが「この文章は2008年に書かれて、2018年に改訂されました」と付記があります。どういうところからとったという出典をはっきりさせることも必要ですが、このように情報リテラシーの基本が扱われているので評価したいと思います。

文法事項に関しては、1、2学年から主語と述語が扱われています。学習指導要領には、文の中における主語と述語の関係に気づくこととなっていますが、各社とも主語と述語という文法用語を使っています。1、2年生に主語と述語という用語を入れて理解させるのは難しいので、それをもう少し考えたらどうかと思います。例えば「誰がどうする、お手

紙がくる、何がどうする」という文例は、学習者にとって母語なのですとわかりますが、それは気づくことが大事という視点からは少し離れていると感じます。もう一点、敬語に関して申し上げます。敬語に関しては言葉遣いということで、学習指導要領では5、6年生は「日常よく使われる敬語を理解し使いなれる」となっています。3、4年生は「丁寧な言葉を使う、敬体・常体に注意しながら考える」です。先ほど申し上げた5、6年生では、日常よく使われる敬語を理解し使い慣れる、これが最終目標で、その前段階が3、4年生の敬体・常体、1、2年生の丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うが出て来るのです。各社とも敬語についてかなり詳しく書いてありますが、詳しくすぎると、授業で教えるのが難しいと思います。なぜなら、現代の社会で日常どのように敬語を使っているか疑問があるからです。その点が、教える側にも教えられる側にも厳しい状況ではないかと思います。

- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **浅松委員** 各社とも今回の改訂に合わせ大変工夫されていると思います。特に情報の扱いの項目が設定されたことにより、図、写真、グラフなどの非連続型テキストの挿入が顕著で、視覚的にも学べるようになっていきます。その中で題材の学びの手だてが見開きでわかりやすいという点で、教育出版と光村図書を取り上げることにします。まず言葉は語彙の学習ですが、教育出版では、「言葉の木」、「言葉のまとめ」として扱っています。例えば5年生の上の教科書だと132ページから133ページです。一方、光村図書では教科書でいうと5年生の293ページ、「ことばの宝箱」としてまとめられています。教育出版はツリー形式にまとめられていて大変わかりやすいです。次に、単元目標ですが、教育出版は下にヒントがあります。5年生の上28ページから29ページです。一方、光村図書も28ページから29ページですが、5年生で着目点が多いです。両者とも文章中の根拠を探す視点がありますが、教育出版は、読みを深める上で大変有効なヒントが多いと思います。次に、単元のまとめですが、光村図書は「たいせつ」というコーナーがあります。それから、教育出版にも「ここが大事」というコーナーがあります。教育出版ではさらに「言葉を学ぼう、言葉をふやそう」というコーナーを設けて、内容にリンクした言葉を並べています。光村図書は30ページ、教育出版は上の31ページです。次に、話す学習ですが、光村は圧倒的に例文が多く、そこがよいです。それから漢字の扱いですが、教育出版1、2年生の、特に新出漢字のすぐ横に書き順が表記されています。教科書の扱いにまだ慣れていない低学年には大変よいと思います。最後に巻末資料について

ですが、教育出版が充実しています。そして、特筆すべき点として、教育出版2年の上、126ページから127ページです。ここでは最初に申し上げた非連続型テキストとして学ぶことを多く内在させていると考えられます。すなわち写真の情報を読み取り、その因果関係をもとに考え、それを適切な言葉で書き、あるいは話すということが実践できるテキストであり、非常によいと思います。以上、総じて私は教育出版が、児童が学びやすい教科書と考えています。読みを深めるポイントやまとめは、指導計画を立てる上でも参考になります。昨今言われていますが、教材研究を含めた教員の負担が軽減されると思います。よって、教育出版「ひろがる言葉」がよいと思います。

- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **阿部委員** 私も光村図書か、あるいは教育出版だろうと思ひまして、それぞれを比較して読み込んでみました。結論としては教育出版を推薦したいと思っています。光村図書は二十四節気、春、夏、秋、冬のいろいろな日本の言葉、俳句や和歌、古典や漢詩などを取り入れて、日本の言葉や文化について子どもたちに理解を深めさせようとしている点が非常に特徴的だと思います。写真も図もとてもきれいですし、レベルが高いと思います。ただし、これだけの内容を教えるには先生にも相当な力量が求められるだろうと思います。現時点で本区の学力向上に関しては、国語で非常に成果が出ていますが、若干消化不良を起こさないか心配でもあります。もう一方の教育出版は、比較的平易であり、先ほど申し上げたいろいろな日本の古典や俳句、あるいは漢文等も積極的に取り入れていますが、光村図書と比較した場合では、若干量や掘り下げ方について少し浅い印象を受けました。また、私が問題と考えるのは、本区でちょうど学力が伸びている過程で、これまで使っている教科書のスタイルを変えてしまうことで、先生や生徒に負担が増えてしまわないかを懸念しています。両社とも甲乙つけがたいですが、現状ではやはり平易な教育出版を選んでおくべきではないかというのが結論です。
- **教育長** ありがとうございます。今の意見では教育出版社、光村図書ということですが、ほかにご意見はありますか。坂根委員、教育出版の方が多いですが、その点について何かありますか。
- **坂根委員** 「学習指導要領」と言う言葉で「学習と指導」を考えますと、「学習」は子どもが自分自身の興味や意欲にも支えられて学ぶことで、「指導」は子どもが学習しやすいように教師が手助けすること私はとらえます。そこから、私はどちらかという子どもが自身で学ぶ姿勢を伸ばすことが大切で、それを教師や周りの大人が、余り手助け

をし過ぎないことが望ましいと考えていて、その点から光村図書を薦めています。しかし、教科書は一つの手段であり「教科書を学ぶ」のではなく、「教科書で学ぶ」わけですから、教科書自体にこだわるわけではありません。先生方の教材研究などに関しても、教育出版はよくされていると思います。特に教材研究に熱心な先生はこの教育出版を使っていると考えています。その意味ではお二方の意見は非常に参考になります。ただ私の希望としては、子どもの伸びる力を信じるという気持ちは残っていますので、ほかのところで伸ばすように、例えば副教材等で使っていただければと思います。

最後に申し上げたいのは、光村図書の5年生の48ページ、「言葉の意味が分かること」という今井むつみさんの文章があります。これは日本語と外国語、つまり母語と外国語との違いを非常に明確に書いています。なぜこれを薦めたいかという、これから外国語教育が始まりますので、そのときに母語と外国語の違いを意識させる、良い教材かと思います。もう一点は、学校図書の5年生の下の80ページ、「ゆず」という作品があります。この中に「書かれていることを対話するように読む」という一文があります。主体的・対話的・深い学びという学習指導要領の基本のところで、対話というのは普通に考えると、さあみんなで話し合おうという感じが多いですが、これは自分と本との対話を端的に示しているのではないかと思います。ぜひ、子どもが自発的に伸びるように指導の工夫をしていただきたいと思います。

- **教育長** では、坂根委員の今のご意見では教育出版でもよいということによろしいですか。
- **坂根委員** はい。
- **教育長** それでは、国語科について採択をします。国語科の教科用図書は「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、国語科の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することに決定します。次に、書写について審議します。では指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 書写の指導事項は、姿勢、読む、筆順に関すること、字形に関すること、点画の書き方、図形の捉え方、字の形の大きさ、字配りなどから構成されています。硬筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養う要素として、文字を正しく捉えて書くことができるようにするとともに、各学年年間30時間程度を配当することとされており、硬筆につきましては、毛筆との関連を図りながら指導することとしてお

り、特に手紙を書いたり、記録をとったりするなど、実際の生活やさまざまな教科の学習活動に役立つよう内容や指導のあり方に改善が図られています。現在使用している教科用図書は、光村図書出版株式会社です。全5社からの採択をお願いします。

- **教育長** それでは、書写の教科用図書について委員の皆さんのご意見をよろしくお願いします。
- **坂根委員** どの教科書もよくできていると思います。優劣つけがたいですが、光村図書と教育出版と学校図書がよいかと思います。書写の目的として正しい書き方、筆の持ち方、筆順とかそれから姿勢、これはどの会社もきちんと書いてあります。あと、伝えるということです。伝えるということは芸術的に美しいということもありますが、わかればよいということです。最終的に指導のポイントとしては、時にきちんと厳しくする、しかし評価は余り厳しくし過ぎない方が書写としては望ましいです。なぜなら、余り厳しくされると書くのが嫌になるからです。光村図書は、硬筆について6年生まで丁寧に指導しており評価できます。それから、光村図書と教育出版は1年生から横書きをしています。現代では横書きを非常によく使います。教育出版はカードも横書きです。光村図書は横書きでアサガオの観察記録をしています。アサガオの観察は必ず生活科にありますので、教科間の連携がよくできます。学校図書は、6年生の38ページに「漢字のいろいろな書き方」ということで、字体の許容について書いてあります。文化庁の出している『公用文の書きあらわし方の基準』という出版物がありますが、それを読めばよくわかります。授業で1点1画を厳しくしすぎて「これは誤りである」としないということですね。「それも認める」といった視点がよいと思います。東京書籍もよくできていますが、サイズが大判です。低学年の場合、机のサイズが大きくないという点と、左書きの児童が使用する場合に問題がありそうです。左手で書くと本を斜めに置きます。斜めに置く場合、本が普通サイズよりも大きいということは、もっと置く場所が必要になります。机の大きさと合わないのではないのでしょうか。その点が少し残念なところです。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **浅松委員** 今回の学習指導要領の改訂で書写は、知識及び技能の方に移行して、点画を意識して整った文字を書けるよう学習することが求められています。新たに点画の書き方が加えられていることは、改訂の大きな要素だと思います。そのため各社とも点画の学び方において「トン」・「スー」などの擬音や、親しみやすいイラストを用いるなどして、児童にわかりやすい学習方法が工夫されています。また、なぞり書きなどで、こ

れまでの文字の形中心の指導から、順筆を学ぶ機会を増やすことも各社共通に考えられていると思います。中でも、東京書籍と教育出版の２社は、書き初めから点画、形にながていく流れがよいと思いました。また、教育出版では、鉛筆や筆の持ち方、姿勢を大事な基礎として捉えて、各学年の教科書の中だけでなく、裏表紙にも写真を載せて意識を促しています。これは全ての学力の基礎となることなので、ポイントは高いと思います。さらに教育出版では、学ぶ前の試し書き、学んだ後のまとめ書きの欄があり、児童が自ら上達具合を判断することができます。これは字を上手に書きたいと思っている児童の意欲向上につながると思います。学習のまとめという点では、東京書籍の「書写のかぎ」がよいと思いました。巻末に１年から当該学年までのまとめを載せて、１年生まで遡っての振り返りを可能にしています。６年生の巻末には小学校１年生から学んだ書写の全てを確認することができ、中学校書写へのつながるものとしても有効にと思われます。以上、各社とも新たな試みや工夫が見られる中、教育出版と東京書籍の２社が特色を出していると思います。しかし、先ほど坂根委員がご指摘されたように、東京書籍の教科書サイズが大きいという点は、教室において使いにくいとの懸念があります。したがって、私は総合的に判断して教育出版がよいと思います。

- **教育長** 私も教育出版は全学年において振り返りに十字や縦のリード線が入っており、整った文字を意識するには非常に有効だと考えます。いまのところ教育出版社と、光村図書と学校図書とありますが、坂根委員いかがですか。
- **坂根委員** 私は先ほど申し上げたように、光村図書と教育出版と学校図書の３社が特にお勧めですので、そのどれかでしたら結構です。
- **教育長** では、ほかにご意見はありませんか。ないようですので、書写について採択をします。書写の教科用図書は「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、書写の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することに決定します。次に、社会科について審議をします。では指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 社会科においては、伝統文化等に関する学習を引き続き深めつつ主権者の育成、防災、安全への対応、海洋や国土の理解、グローバル化、産業構造の変化、持続可能社会の形成等に対応した内容を改善充実することや、深い学びの実現のために「社会的な見方、考え方」を用いた考察、構想や説明、議論等の学習活動を充実し、社会との

関わりを意識して課題を追求したり、解決したりする活動が重視されています。また、6 学年ではこれまで歴史分野を学習してから政治分野を学習する構成となっていました。今回の改訂で政治分野を先に学習する形に変更されています。社会科につきましては、現在使用している教科用図書は、教育出版株式会社です。全 3 社からの採択をお願いします。

- **教育長** それでは、社会科の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をお願いしたいと思います。
- **浅松委員** 墨田区の最近の学習状況調査の結果を見ますと、全ての観点で成果が上がっています。ただ、本区の児童は社会的事象への関心・意欲はあるものの、社会的事象の意味を考え、あるいは目的に沿って資料等を活用する面で、やや課題が残ると思います。このことを踏まえた上で、墨田区の児童にとってふさわしい教科書を考えますと、社会的事象の見方、考え方を働かせ、学習問題を追求、解決する活動の充実が図れる教科書ということになります。全部で社会科は 3 社、各社とも学習指導要領に示された目標にのっとり、特色ある内容構成となっています。中でも教育出版は問題解決に向けた主体的な追求や、学び合いに効果的に活用できる教科書で、何よりも知識や技能の確かな習得のもとに思考力、判断力、表現力を育む教科書というコンセプトがぶれず、全学年一貫していると思います。6 年生のグローバル化する世界と日本の役割についての学習で、各教科書の内容構成を比較してみますと、教育出版の「日本とつながりの深い国々」では、政治、歴史、そして世界の中での日本、国際社会における日本という構成になっています。後ろの方になりますが、日本とつながりの深い国としてアメリカ、中国、ブラジル、サウジアラビアの 4 国を取り上げています。それぞれの国土の様子や産業、日本との貿易等、全体的にとってもわかりやすくまとまっています。一方、東京書籍では、アメリカ、中国、韓国、サウジアラビアの 4 カ国を取り上げています。内容ですが、人物キャラクターの登場が非常に多く、全体の国の様子がやや掴みにくくなっている気がします。最後に、日本文教出版の「世界の中の日本」では、アメリカ、中国、ブラジル、韓国の 4 カ国を扱っています。ここではそれぞれの国の人物が登場して国の様子について紹介する形になっていますが、本文構成をもう少し工夫した方がよいと思います。次に、6 年生の教科書で国際連合の働きや我が国の国際協力に関する対応ということで、教育出版の場合は、現在の課題としてよく出される持続可能な開発目標の 17 項目、いわゆる「SDGs」が 271 ページに表でよくまとめられていると思います。また、教育出

版では、地球環境を身近な問題として他教科へリンクする部分があり、今日的課題として注目のテーマを取り上げています。このテーマについては社会科でしっかりと抑えておきたい部分だと思います。さらに、教育出版では、日本人で国際協力に貢献している2名、アフガニスタンで人道支援に当たっている中村哲さんと、ユニセフ職員の井本直歩子さんの記事があります。この2名の事例は、世界の平和や環境を守る取組について前向きに考える国際単元として価値がある教材で、これからの時代に生きる子どもたちにとっては好教材だと考えます。次に、小学校3年生の社会です。第3学年で最初に学習する社会科の単元は「わたしたちの町と市」であり、最初の学習問題が「私たちの町はどのような様子なのだろうか」です。第2学年までの生活科での町探検の学習経験を生かしながら、これまで以上に自分たちの町全体を意識した学習内容の取扱となります。町探検の学習計画に基づいて、実際に観察して気づいたこと、わかったことを地図にしていって学習課程がわかりやすく、町から市へ、そして全体へと学習の対象を広げるに当たって、実際に現地で歩くのはかなり厳しく観察が及ばないところも、このたび3年生から採用された地図の活用で学習問題の解決につながれると思います。この点についても、早い段階から地図帳を活用した学習展開を無理なく指導できるよう、内容構成を工夫している教科書ということで見ていきますと、教育出版が子どもにとっても教員にとっても扱いやすいと思います。なお、30年度の区の学習状況調査の小学校4年生の社会の結果で、土地利用の地図記号についての理解が目標値から12.3ポイント下回るという結果を課題とする声があります。小3の段階で地図記号を教え込むというのではなくて、調べたことを白地図にしていっていきの際の便利なツールとして、方位も含めた地図記号の利便性を理解させていくためにわかりやすく丁寧に取り扱っているのが教育出版です。他の教科書より扱いが細やかで本区の児童にとってわかりやすい教科書だと考えました。

- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **阿部委員** 私も3社のうちから教育出版か日本文教出版のいずれにしようか、検討しました。結論としては教育出版を推薦したいと思っています。児童が主体的に考えて問題解決を図る学習のために、まずは興味を持てるかどうか、そしてやさしく理解しやすいかどうか、写真や図、あるいはグラフなどが豊富でビジュアルであるかどうか、そして最終的に今何を学び、今学んでいることにどんな課題があるのかということ、問題意識を持って考えられるかなどの観点で比較しました。各社の取り上げる題材や地域については、それぞれ特色や長所・短所があるように思います。その中で教育出版は、写真

や図版が比較的多くて説明もわかりやすいので、一番バランスがとれているという印象を持ちました。他方の日本文教出版は、内容が豊富で、最新の話題についても積極的に取り上げられているところに好感が持てました。例えば、5年生の「日本の海にある資源」という項目で、排他的経済水域の関係でメタンハイドレートやレアメタル等これからの日本のエネルギー問題にとって非常に深い意味のある新しい問題を取り上げるなど、社会に興味のある生徒であればさらに勉強を深めたいと思えるような題材が盛られており、これは非常によい点だと思います。ただ、3年生から地理の勉強を始める段階で、地域として姫路を扱っており、4年生の県を調べるところでは岡山県を、行政のいろいろな活動をする場面の勉強では、ごみ処理は大分県、水道は大阪府を題材にしているなど、どちらかというと関西エリアの題材を使っています。初めて地理を勉強する児童にとっては、若干エリアが違うので少し違和感を持つのではないかと気になりました。教育出版は、今申し上げた地理のスタートは、横浜市の地域について勉強するところから始まっています。そのほか行政関係では福岡県、ごみ処理の問題は浜松市、水道は相模原市と、かなりばらつきがありますが、おおむね関東に近いエリアの題材を扱っているので、日本文教出版と比べると若干親和性があると思いました。また、もう一点の比較対象として私が注目したのは、地域を学んで地域に関心を持たせるという観点で、墨田区ゆかりの題材がどの程度扱われているかという点も調べてみました。教育出版は6年生の歴史の分野で、葛飾北斎、隅田川の花火、震災復興の関係で後藤新平、それから戦災と復興の写真も墨田区の写真がその戦災当時と今の復興している状態の比較写真として載っています。人物関係では、勝海舟が当然取り上げていただきたい人物で、これは両方とも載っています。この点で教育出版は江戸無血開城の絵が載っていますが、日本文教出版はさらに勝海舟の果たした役割についてコメントが載っているので、この点はむしろ日本文教出版の方がおもしろいです。ただ、日本文教出版はスカイツリーの写真や、本所防災館の写真が載ってはいるのですが、先ほど申し上げた歴史的な背景も踏まえると、教育出版の方がより地域への関心を高める内容ではないかと思いました。これらの点を勘案して、教育出版を一番に推したいと考えました。

- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **坂根委員** 先ほど浅松委員がおっしゃったことと関連しますが、3年生の「まち探検」は2年生から継続的に入りやすい良い題材だと思います。その中で3社比べましたら、教育出版は絵地図をつくるのにまずその大体の地図があり、それから地区センターの方

と別の地域のお寺の住職にインタビューして、2つをまとめたという形になります。これは大変すばらしい地図のつくり方で、学習計画や調べることを知らなかった子どもたち自身がそのようにしていきます。東京書籍は児童のまとめた地図が最初から出ています。日本文教出版も学校の周りの探検地図ですが、この3つを比較しても教育出版が非常にすぐれているということがわかります。このインタビューをすることで、インタビューする人に対してお願いの手紙とお礼の手紙を書く必要が出てくるので、他教科との連携もうまくいくのではないかと思います。それから皆さんがおっしゃったことにつけて、歴史に関して申し上げますと、日本文教出版はなかなかおもしろい人物を取り上げています。6年の199ページ、二二六事件直後の斎藤隆夫さんの国会演説を取り上げています。私は実際の音源をテレビで聞いたことがあります、大変すばらしい演説です。中学・高校でもなかなか取り上げないものに触れています。それから、教育出版では「自由民権運動と女性」ということで、楠瀬喜多さんという高知の方を取り上げています。これは大変良いことだと思います。津田梅子や与謝野晶子は全社取り上げています。全体に取り上げている女性の数が少ないなか、例えば先ほどの楠瀬さんについて「夫が亡くなった後、一家を代表して税金を納めていましたが」という記述から何が考えられるか興味深いです。また、樋口一葉は、作家として有名なだけでなく、一家の家長として明治の女性としては珍しく、男性とも自由に会っていた方でした。ですから、ただ作家として有名なだけでなく、その人の生き方にも少し触れるとよいと思います。これが発展的学習です。ということで、教育出版を推薦したいと思います。

- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **白石委員** 私も教育出版がよいと思います。全ての教科書を見ましたが、やはり絵と写真の配図がとても綺麗でした。また、154ページの「今につながる江戸の文化」というところで花火などが出ています。墨田区の子どもたちには非常に身近なものですが、これが昔からあったということ、理解させるのにとてもよいと思いました。
- **教育長** それでは、社会科について採択をします。社会科の教育用図書は「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

(「異議なし」の声あり)

- **教育長** それでは、社会科の教科用図書は「教育出版株式会社」を採択することに決定します。それでは次に、地図について審議をします。では、指導室長、説明をお願いします。

- **指導室長** 教科用図書としての地図の活用については、社会科の学習を進める上で大切な教材であることはもちろんですが、他教科や日常の生活においても地図帳を活用した指導を行い、地図を自在に活用できるようにすることが重視されています。地図につきましては、現在使用している教科用図書は、東京書籍株式会社です。全2社から採択をお願いします。
- **教育長** それでは、地図の教科用図書について、委員の皆さんのご意見ををお願いします。
- **浅松委員** 地図は各学年の目標に沿って身近な地域の調査活動、我が国の国土や世界の地理的環境、国際社会における我が国の役割を理解するにあたり、各種の基礎的資料とあわせて情報を適切に調べまとめる技能を身につける際に大変不可欠な教科用図書と考えます。今回の改訂でこれまで4年生で配付されていた教科用図書地図を第3学年から配付することになりました。その意味ではどの学年の子どもにも、見やすく親しみやすいものであることが条件です。同時に資料活用能力を高め、主体的な学びの力を伸ばすため、発達段階に応じた使い方ができるように工夫されていることが選ぶポイントとなります。以上の点から考えますと、帝国書院の地図がふさわしいと考えます。理由は、地図をもとにお話しします。まず1ページから3ページ、表紙の次の見開きのところです。「世界発見」というタイトルになっていますが、小学校3年生で初めて地図を手にするわけで、そのために3年生の児童に親しみやすく大きなイラストや国名等、さらに英語も付記して、3年生から始まる英語活動ともリンクさせている配慮が伺えます。2点目は同じ帝国書院ですが、20ページ以降の広く見渡す地図の九州地方を例に挙げますと、縮尺を小さくし範囲を縮めて記載情報を減らし、低学年や地図を読むのが苦手な子どもでもイラスト入りでわかりやすくしています。次に、東京書籍の方を見ていきたいと思います。表紙の次のページ、1、2ページ、「世界のぼうけんに出発！」というのが見開きであります。イラスト満載で、イラストから何があるか見つけようという形で導入されています。地図に関心を持たせ、調べさせようという、資料活用の出発点とすることを意識している点は評価できると思います。ただ、空間認識させる構成は見事ですが、情報量にやや難があると思います。そういう点から帝国書院は地図マスターという説明があります。これは、学年の発達段階に応じていろいろな発問があります。80カ所ぐらいあります。例えば60ページを見てもらおうと、関東地方南部、千葉県の隣に地図マスターへの道というのがあります。これはかなり縮尺が大きいですから、いろいろな情報が入っています。レベル1が「東京ディズニーランドを探そう、東京にあると思

つつ千葉にある」、レベル2では、「東京、大阪、名古屋で市街地が一番広がっているのはどこか」、レベル3は製油記号が千葉県の上にあり、その理由をグラフや表も絡めながら探らせています。細かい話になりましたが、この地図マスターはかなりの決め手になった部分です。地図は眺めるものというところから、考えて課題を見つけ、解決することや主体的に考えを深めていくという、今の学習指導要領の趣旨を生かしていると思います。最後に、今回の学習指導要領では、小学校社会科の社会的事象の見方・考え方を働かせた学びということが強調されています。それにつなげるための工夫が大変評価できます。

- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **阿部委員** 私も帝国書院をお薦めしたいと思っています。1点目は、領土、領海等の説明と図が、帝国書院の方がわかりやすいのではないかと。2点目は、グラフやデータが最新のものを載せている点です。3点目は、3年生から地図を使うようになり、東京書籍の方がむしろ低学年にとっては使いやすいとも思うのですが、学年が上がることに伴い地図を使いこなしていくということを考えると、3年生の段階からオーソドックスな帝国書院を使う方がよいのではないかと思います。それから、都心の地図を東京書籍と帝国書院で比べると、東京書籍は墨田区の部分が一部切れてしまうところがあるのと、帝国書院は墨田区役所やスカイツリー、向島百花園等の施設が載っている点で、地域を学ぶ上では帝国書院の地図の方が興味をひくのではないかと考え、帝国書院を選びました。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **坂根委員** 私も帝国書院がよいと考えます。地図帳には必ず索引があり、東京書籍は13ページ、帝国書院は17ページに索引の引き方の説明があり、索引から場所を探すということを考えてみました。圧倒的に帝国書院の方がわかりやすいです。帝国書院は説明の下に地図があり、探し方のポイントが時間割のように上から一目瞭然でわかります。それに対して東京書籍はイラストで説明がありますが、地図は非常に小さいです。私は良く地図を使います。昨日ニュースで見た埼玉県のある市を調べようと思って索引を見て調べました。地図になじむには索引が大事です。その点だけでも帝国書院を選びました。
- **教育長** それでは、地図について採択をします。地図の教科用図書は、「株式会社帝国書院」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

(「異議なし」の声あり)

- **教育長** それでは、地図の教科用図書は、「株式会社帝国書院」を採択することに決定します。議事の都合によりここで教育委員会を一旦休憩します。なお、再開は11時とします。

(一旦休憩)

- **教育長** ただいまから教育委員会を再開します。次に、算数科について審議します。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 算数科においては、数学的に考える資質・能力を育成する観点から、実社会との関わりと算数・数学を統合的、発展的移行していくことを意識して、数学的活動の充実等を図ること、社会生活などさまざまな場面において必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり、意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力を育成するため、統計的な内容等の改善充実を図ることが重視されています。算数科につきましては、現在使用している教科用図書は、日本文教出版株式会社です。全6社からの採択をお願いします。
- **教育長** それでは、この算数科については、私から意見を述べさせていただきます。算数を理解させるためには、児童がわかりやすく、そして良質な練習問題を必要数こなすことが重要であると考え、その点から学校図書を推薦したいと思います。まず、問題の解説が余り丁寧過ぎず、適度な解説になっています。余り細かすぎる解説があるとなかなか自分で考えることをしませんが、適度な解説になっています。練習問題も、やさしいものだけではなく、難しいものもバランスよく入っています。そして、応用編の発展の考えですが、複数の考え方を示している箇所があります。これは各社いろいろ工夫されていますが、学校図書を選んだ理由として、説明の中で考え方が一緒に載っているものが多くありました。読んだときにわからなくても、考え方を見ることで、自分で考えることができます。また、学習指導要領で求められているプログラミング教育を全学年で扱っています。大日本図書も扱っていますが、学校図書の方が発達段階に合わせたわかりやすい記述になっています。また、各社とも中学校への接続を意識する工夫はされていますが、学校図書は別冊になっているため扱いやすいと思います。以上の理由から、算数科については基礎基本がしっかりして、発展的なものも取り扱っている学校図書を

推薦します。そのほかにご意見ある方はいらっしゃいますか。

- **浅松委員** 私も学校図書を推薦します。小単元や例題ごとのねらいが明確であり、主体的な学び、友達と学び合う対話的な学び、生活に生かすための深い学びというように、学習指導要領の学び方の3本柱を忠実に踏まえていると思います。数学的な考えを育むための手だてによって、問題解決の流れがとてもわかりやすいです。また、見方、考え方はマスコットのキャラクターを使って工夫されています。学習を進める際の手がかりとアドバイスも的確に書かれています。先ほど教育長からもお話がありましたが、6年生の別冊の最後に「中学校へのかけ橋」という部分があります。他社も工夫していますが、学校図書の構成が一番スムーズにいくだろうと思いました。また、単元の終末に「できるようになったこと、学びを生かそう」というところがあり、学習の成果を確認でき、さらに生活に生かすために深めていける工夫があります。以上の点で、学校図書を推薦します。

- **教育長** ほかにご意見はありますか。

- **坂根委員** 私も学校図書を推薦します。算数科に関しては導入段階で非常に注意することがあります。児童が数を数え、足し算引き算をすることはできても、序数詞と一緒に読めるとは限りません。日本語の場合、数詞の音訓と序数詞の読み方に難しいものがあります。例えば「匹」について言うとは3は「3匹 さんびき」といい、4は「4匹 よんひき」と言います。イチ ニ サン、シと数を数えても、4匹は「よんひき」で「シひき」とは言いません。そこで4（シ）に「よん」ともう一つの言い方の訓読みが書いてあり、7（シチ）が「なな」、9（ク）が「きゅう」と書いてあるかを各社、チェックしました。

「よん」、「なな」、「きゅう」が書いてあるのが学校図書、啓林館、大日本図書です。東京書籍、日本文教出版、教育出版は記述がありません。学習の初期から序数詞を意識させるのが大事だと思います。それから、比較する対象の組み合わせについてですが、学校図書はその組み合わせがかなり自然です。犬と猫と同じ種類（匹）でよいですが、卵とヒヨコだと子どもはそちら（卵は個 ヒヨコは匹）に気を取られますので、そういう扱いに注意が必要だと思います。教育長が言う「丁寧過ぎず、適切」というのも、この点だと思います。また、学校図書の3年の上巻に「時刻や時間を求めて」というものがありますが、ここで「かかった時間を言う時に、普通は「間」を省きます」と説明しています。これは大切な指摘で、例えばマラソンで「2時間5分（間）」かかったとは言いません。

「２時間５分」かかったと言います。質問では「何分間」と言っても、答えは「何分」という言い方をします。このように言葉を丁寧に扱うことは、子どもの学びに必要なだと考えます。

- **阿部委員** 私も学校図書が最適だと思います。６社それぞれ特色や工夫があり、いずれも問題ないと思います。その中で、墨田区の算数全体の学力向上について、基礎的な理解が必ずしも十分でない、いわゆるＤ・Ｅ層の子どもたちの理解をどうやって増進していくかについて考えました。まずは算数に興味を持ってもらわなくてはなりませんので、内容が平易で取り組みやすく、算数の基礎基本をしっかりと身につけてもらうという観点から、学校図書がよいと思います。算数は、社会や理科のように自分の生活と直接結びつく科目ではないので、どうやったら興味を持ってもらえるかを考える必要があります。これから学ぶことは自分の生活のどんな場面で使われ、生かされるのか、そういう導入によって興味を持つようになるのだと思います。その中で学校図書は、各単元の前にクエッションマークで疑問を発見という表題があり、日常生活の中でこれから学ぶことがどう使われるのかを示す絵があり、比較的導入しやすい工夫がされています。そのほか、若干大判でゆったりしているので見やすく、説明が比較的平易であることから、ふさわしいと思いました。各単元の後ろの方に、補充問題も豊富にありますので、これを役立てれば学力向上にもつながるのではないかと思います。最後に、６年生の付録で「中学校へのかけ橋」という冊子がついていますが、これをしっかり勉強して中学への数学に結びつけてもらえたら、なおよいと思います。

- **教育長** それでは、算数科について採択をします。算数科の教科用図書は「学校図書株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、算数科の教科用図書は、「学校図書株式会社」を採択することに決定します。次に、理科について審議します。それでは、説明をお願いします。
- **指導室長** 理科においては、知的好奇心や探究心を持ち、自然に親しみ見通しを持って観察などを行い、その経過を整理し、考察するなどの科学的に探求する学習活動の充実、理科を学ぶとの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連が重視されています。理科につきましては、現在使用している教科用図書は、教育出版株式会社です。なお、見本の一覧にあります一般社団法人信州教育会出版社につきましては、長野県を主に置いている出版会社のため、見本が本区へ送付されており

ません。従いまして、理科は全5社からの採択をお願いします。

- **教育長** 理科の教科用図書については、私から意見を述べさせていただきます。理科の教育を深めるためには児童の興味関心が重視されます。そして、そこで終わらせるのではなく、子どもたちが教科書を読んで教員から説明受けたときにわかりやすいことも大事です。また、応用的な考えができるようにすることも選定基準にしました。それらを踏まえ、私は大日本図書を推薦します。わかりやすさについては、例えば、昆虫の体のイラストで頭、胸、腹という色分けをして、子どもたちの記憶に残りやすい工夫がしてあります。また、応用的な考えの話ですが、「理科の玉手箱」というものがあり、履修した内容について児童がさらに興味を持てるような工夫がしてあります。次に、「体のつくりと働き」で消化器を扱っていますが、気管と食道が一緒の図に載っています。そうすると食道と気管が体の中でどうなっているか、立体的に図で示されているので、位置関係がわかるとともに、単に呼吸器の学習、消化器の学習だけではなく、合わせたものとしてもう1回見直して、応用に結びつけることができます。次に、単元の始まりに今までで学んだことや他の教科での履修事項の説明があることで、他教科との連携もできています。これは非常に重要だと思います。次に、記述が丁寧です。例えば小学校3年生の「日光の進み方」では、鏡を割ってしまったら先生に伝えるという記載があります。こういったところも非常に丁寧です。また、地面の温度を測るときの設定の仕方が書いてありますが、風が強く吹いたときにどうするかといった細かいところまで記述されています。更には、子どもたちが自分で考えた内容が吹き出しに出てきます。これらの点から、大日本図書を推薦します。では、ほかにご意見のある方はいらっしゃいますか。
- **白石委員** 私は学校図書がよいと思います。理由は大きく3つあります。第一は、問題解決の学習についてです。児童が、理科は楽しい、理科が得意だと実感できるようにするためには、身近な自然から問題を見つけ出し、主体的に問題を解決する活動や新たな問題を発見する活動を積み重ねていくことが大切だと思います。学校図書は、問題を見つけよう、問題、予想、計画、観察、実験、結果、考察、わかったことという構成で、児童が見通しを持って学習を進めることができると考えます。第二に、理科で学習したことと日常生活との関係性です。6年生の208ページでは、子どもたちが地球環境、地球温暖化、それから水質汚染の現代の環境問題を自分たちの問題として捉え、持続可能な社会をつくるために行動を取り入れた7つの工夫が記載されています。第三は、新しく

取り入れられたプログラミング教育についてです。学習指導要領では、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な、論理的思考力を身につけさせるための学習活動と示されています。これは192ページでLEDの点滅のさせ方について、対話式でのコメント、考えが深められるようになっていたと思いました。あとは、ぱっと見た感じの絵の持っていく方が、子どもにとってもなじむのではないかと感じました。

- **阿部委員** 私は大日本図書がよいと思います。5社それぞれ特色があり、いずれも大変興味深い本だと思いますが、理科に関しては、墨田区の学力向上の成果が必ずしも十分にあらわれていない分野だと思います。そこで、子どもたちにいかに理科に興味を持たせるか、そして実験や観察を通して分析し結論に導き、どうやって問題解決型の学習を定着させるかということを考えた場合に、大日本図書が一番整理されている印象を受けました。現在使われている教育出版と比較した場合に、大日本図書の方がシンプルで一貫性がある印象を持ちました。大日本図書は各単元でまず問題、予想、計画、観察または実験、結果、考察という課程を明瞭に示しながら、最後に結論としてそこで学んだことをまとめるスタイルを徹底しています。課題を解決していく過程が非常に明瞭に示されるので、理科的な考え方、解決の仕方を学ぶ上で非常によいと思います。学校図書も同じようなスタイルをとっていますが、若干ポイントの置き方が統一性に欠けており、大日本図書の方がより明解だという印象を持ちました。それから、大日本図書は写真やイラストも非常に鮮明で綺麗です。最後に、単元ごとに結論を極めてシンプルにまとめているので、学んだことの定着も図れるかと思います。そういったことから、大日本図書が一番良いという結論になりました。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **浅松委員** 生徒の安全、事故防止という観点からお話します。各社とも巻末に器具の使い方が載っています。特に注目したのは、実験用ガスコンロの使い方の部分で、つまみを「消」まで回して火を消し、火が消えているかどうかを確かめる。これは全社同じですが、ガスコンロやガスボンベが冷めたら、ガスボンベを外した後にもう一度つまみを点火まで回し、中に溜まっているガスを燃やしきる。そこまで丁寧に書いてあるのが3社でした。大日本図書、教育出版、東京書籍はその辺まで触れています。理科における事故防止という視点から教科書を見る必要もあると思いました。その中でも、一番見やすいという点で、大日本図書がよいと思います。
- **坂根委員** 私も大日本図書を推薦したいと思います。大日本図書の129ページ、振り子の

平均を求めるのですが、算数との連携が詳しく述べられています。これは大事だと思います。それから、全体に言えることですが、観察ノートが綺麗に決まり過ぎているので、子どもがこのように書かなければいけないとってしまうのではないかと思います。観察のスケッチに関して、各社メダカの写真と顕微鏡で見た写真をスケッチするというのがありますが、理科のスケッチは図工・美術とは違い、影をつけたりしてはいけないということを授業の中でよく指導していただきたいと考えています。

- **教育長** 大日本図書が学校図書がということになります、白石委員は他の意見を聞いてどうですか。
- **白石委員** 各委員の目線の違いをすごく感じました。見方の違いだと思いますので、私も大日本図書に賛同したいと思います。
- **教育長** それでは、理科について採択をします。理科の教育用図書は「大日本図書株式会社」に採択したいと思います、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、理科の教育用図書は「大日本図書株式会社」を採択することに決定します。次に、生活科について審議いたします。では、指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 生活科においては、子どもたちが思考、予測、工夫することなどを通して、新たに気づきを生み出すことや伝え合い、表現する学習活動を行うことで学びを振り返り、気づきの質を高めること、生活科を中心としたスタートカリキュラムの工夫により、幼児期の遊びを通した総合的な学びからより飛躍的な学びへ円滑に移行することが重視されています。生活科につきましては、現在使用している教科用図書が学校図書株式会社です。なお、見本本一覧にあります一般社団法人信州教育会出版社につきましては、先ほどの理科と同様、本区へ見本本が送付されていません。従いまして、全7社からの採択をお願いします。
- **教育長** それでは、生活科の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をお願いします。
- **阿部委員** 私は、東京書籍を推薦したいと思います。まず、生活科を学ぶ目的は、学校、家庭、地域、あるいは自然の中での活動や体験を通して、周囲との関わりや社会の成り立ちや自然とのつながりなどを学びながら、生活上の習慣や技能を身につけることで、児童の意欲や自信を育むということになっています。そこで、5つのポイントに絞ってどの教科書がよいか考えてみたいと思います。1番目は、この生活科が低学年の段階な

ので、わかりやすく関心を引く内容なのかどうかです。2番目は、活動や体験を通じて学ぶということから、教科書の写真やイラストが豊富で具体的な場面や自然の環境等のイメージをしやすいかどうかです。3番目は、安全や防災教育への配慮がなされているかどうかです。4番目は、単なる活動や体験で終わらせるのではなく、学びや気づいたことをきちんと会得させているかどうかです。5番目は、3年生以降の理科や社会への学習につなげる上で効果的かどうかです。以上の観点で7社の教科書を検討しました。その結果、わかりやすく簡潔に説明しているという観点、子どもたちが興味を持って発想し、発見や気づきの機会になりやすいという観点から、東京書籍と学校図書の2社に絞り込みました。まず、東京書籍は判がA4判で、写真やイラストが大きくて見やすく、見開き2ページの中で整理され配列されているので、子どもたちの興味を引き出すとともに大変わかりやすい内容ではないかと思いました。一方の学校図書ですが、AB判で東京書籍よりサイズが若干小さくなりますが、写真やイラストも綺麗でわかりやすいと思います。また、植物や昆虫や動物などの紹介のイラストも、図鑑のようにとても綺麗で興味が湧く内容だと思いました。学校図書の特徴として、上巻の最初でアサガオの種をまいて花を咲かせ、最後に種を採るまで観察しますが、これは子どもたちが初めて動植物を育て観察する活動になるわけですが、学校図書は、単なる理科的な観察にとどまらず、自分が植えたアサガオを愛情かけて育てるという体験をさせるという観点は、子どもたちにとって多くの気づきが得られるのではないかと思います。これは大変すぐれた視点だと思います。反面、「季節と暮らし」という課題に関しては、学校図書は1カ所で四季の変化をまとめて説明をしていますが、東京書籍は実際の季節の移り変わりにあわせて、その時々自然と暮らしを学ぶスタイルになっており、その点については東京書籍の方が理解しやすいのではないかと思います。それぞれに長所・短所があり甲乙つけがたいですが、大判で写真やイラストが多く全体にわかりやすいということに加え、通学路の安全を守るページが早い段階からありますので、それらの点を総合的に勘案して、東京書籍をお勧めしたいと思います。

- **坂根委員** 私は学校図書を推薦したいと考えます。生活科の目標は、具体的な活動や体験を通して身近な生活に関わる見方、考え方を生かして、自立し生活を豊かにしていくための資質能力を育成することです。その点で、学校図書は、単元名が上下巻でこの目標に対応しています。上巻の初めは学校の中のこと、下巻は町の体験です。上巻は「わたしのあさがお」、下巻は「わたしたちの野さいばたけ」、上巻は「あそびにいこう

よ」自然と触れ合う、下巻になると「作ってあそぼう」制作に転じます。生き物に関して上巻は「いきものだいすき」、下巻になると「生きものと友だち」、最後が上巻は「ありがとうがいっぱい」感謝をしてもうすぐ2年生、下巻は「わたし大すき」、こういう单元名になっています。このように視点が推移していきます。詳しく言うと、学校から学校探検、町探検、「わたしのあさがお」から「わたしたちの野さいばたけ」、自然から制作するものへ、「いきものだいすき」、それから「生きものと友だち」になる、自分のことばかり考えていたものが他者への視点へ、つまり自分中心の自己愛から他者への愛へと移る流れが感じられます。

次に、学び方図鑑が大変すばらしくよくできています。見る、遊ぶ、話す、聞く、書く、発表する、そういう形が大変すぐれていると思います。もう一点、教科書には「何々してもらおう」という表現が多いです。東京書籍9回、大日本図書14回、光村図書7回、啓林館5回、教育出版と日本文教出版4回、学校図書は3回です。自立という視点から「何々してもらおう」という表現は控えた方がよいと私は考えています。

- **教育長** 私は学校図書を推薦したいと思います。その理由は、「動かし方を見つける」という項目があるのですが、そこで投げるとか転がす、風であおぐ等、そのワードを自分たちで工夫させるようになっていきます。毎回自分で考えさせることが生活科では重要になってくると思います。ほかにご意見はありますか。
- **浅松委員** 私も学校図書を推薦します。子どもの読書活動を推進するということで、墨田区は条例を制定しましたが、学校図書は、校内の図書室、図書館の簡単なマナー等を学校探検の中の一つとして紹介しています。同じく学校図書の26ページから27ページに「としょかんにいこう」というところで、写真も大きく他社と比べてもすごくわかりやすいです。読み聞かせ等もクローズアップして取り上げているという点でも、学校図書を推薦したいと思います。
- **教育長** 阿部委員、いかがでしょうか。
- **阿部委員** 両社とも甲乙つけがたいと思いますので、学校図書で異存ありません。
- **教育長** それでは、生活科について採択をします。生活科の教科用図書は、「学校図書株式会社」に採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、生活科の教科用図書は、「学校図書株式会社」を採択することに決

定します。議事の都合によりここで教育委員会を一旦休憩します。なお、再開は午後 1 時10分とします。

(一旦休憩)

- **教育長** ただいまから教育委員会を再開します。それでは、続きまして、音楽科について審議をします。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 音楽科においては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり、味わって聞いたりする力を育成することなどの成果を踏まえ、さらに感性を働かせ、他者と共同しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聞いて、よさや活動を考えたりしていくこと、また我が国や郷土の音楽に親しむなどの課題に対応できるよう改善を図ることが重視されています。音楽科につきましては、現在使用している教科用図書は、株式会社教育芸術社です。全 2 社からの採択をお願いします。
- **教育長** それでは、委員の皆さんのご意見をお願いしたいと思います。
- **阿部委員** 私は、教育出版を推薦したいと考えています。両社を比較して気づいた点を申し上げたいと思います。教育出版は、とにかく大判で写真が非常に美しいのが特色だと思います。歌を歌う前に写真で情景や歌詞を鑑賞した後に、情景をイメージしながら歌を楽しむという構成になっていると思います。例えば 3 年生では「富士山」、4 年生では「桜」あるいは「もみじ」、5 年生では「こいのぼり」、6 年生では「朧月夜」や「われは海の子」など、大変美しい写真や歌詞から、次に歌に入るという構成になっています。教育芸術社は、それなりにビジュアル的な要素を加えていますが、教育出版と比べると、若干インパクトが弱いと思います。もう一点、墨田区では「音楽都市すみだ」ということで、子どもたちにオーケストラ鑑賞教室を実施していますが、オーケストラへの関心を高める上でも、教育出版の方が写真や説明が詳しく載っています。次に、曲目ですが、曲の内容はそれぞれ特色があるようです。どちらかという、教育芸術社の方はオーソドックスな印象を受けます。教育出版は、若干親しみのある目新しい選曲に特色があるように思います。次に、国歌の取り上げ方ですが、「君が代」については、教育芸術社は全て巻末に載せており、教育出版は後半の方に見開き 2 ページで説明しています。両方とも国歌の意味や国歌に対する態度等について触れており、この点は両社

遜色ないと思います。そのほかに気づいた点としては、教育出版には歌の作曲者や作詞者の氏名にふりがなが付されていますが、教育芸術社にはふりがながないことに気がつきました。作曲者や作詞者は判読が難しい場合がありますので、まだ知識として覚えさせる必要はないと思いますが、曲と一緒に作曲者や作詞者の名前に触れ、あるいは覚えることも意味のあることだと思います。そのほか、墨田区にゆかりの滝廉太郎の「花」もぜひ取り上げてほしい歌曲です。教育芸術社は、「花」の歌詞と解説が6年生で載っていますが、曲はついていません。教育出版は、5年生の「合唱」の項目で、「花」の1番のみ歌詞と楽譜が取り上げられています。いずれにしても、「花」は墨田区にゆかりの深い曲なので、教科書の内容を拡大してぜひ子どもたちにも教えてもらいたいと思っています。なお、両社とも教科書にQRコードがついており、ウェブから実際に曲を聞くことができますので、ITを使用したこれまでよりも進んだ教え方ができるのではないかと期待されるところです。以上を総合して、教育出版をお薦めしたいと思います。

- **白石委員** 私も教育出版がよいと思いました。教育出版は、全学年で、学習に見通しを持たせるための学び内容を設定し、單元ごとに、どのように学習するのかわかりやすいように伝える工夫をしていると思います。見通しを持って学習すると、子どもたちは自覚を持てますし、学習効率も高まっていくのではないかと思います。また、曲に対してのイメージを持たせるためについてですが、3年生の40ページ、「富士山」を大判で写真を見開きにしていますが、次のページで児童の曲に対するイメージを持たせる工夫を行っていると思います。また、同じページに、墨田区に縁がある葛飾北斎の絵が掲載されているのもよいと思いました。教員の指導のしやすさについても考えました。オーケストラ鑑賞の取扱いですが、教育出版社では、4年生の52ページに、曲の初め、中、終わり全体の流れを示す音の速さや強さ、聞こえた楽器の種類、音楽の感じなど、児童が主体的に感じとったことをまとめられる図があります。鑑賞前に具体的な視点で提示して教員が指導できるのではないかと、また、児童はより多くのことに気づきながら鑑賞できるようになるのではないかと思います。
- **坂根委員** 今お二方がおっしゃったことに私も同感です。つけ加えて申し上げますと、昨年2018年は、童謡ができて100年の記念すべき年でした。童謡は、詩人の方が書いて、国語の教科書にも掲載されているものがあります。阪田寛夫、まど・みちお等、墨田区にゆかりの深い芥川也寸志が作曲し、作詞は与田準一の「小鳥」、そのほかに6年で、

高野辰之と岡野貞一のゴールデンコンビが作詞作曲のものも載っています。信州の様子も写真とともにすばらしい絵があります。写真と曲を合わせて鑑賞して感動を与えるという想定になっており、大変すばらしいと感じます。それから、両社とも6年で「仰げば尊し」、それから「われは海の子」が載っています。中学で習う古典との関わりが「仰げば尊し」の「今こそ分かれ目」、「われは海の子」の「煙たなびくとまよこそ、我が懐かしき住みかなれ」にあります。「こそ、なれ」というのは、已然形の「こそ」で係り結びになります。これを急に中学・高校で勉強すると嫌になるかもしれませんが、歌として覚えている、あのときはこういうことだったと記憶がよみがえる、これは学習において大変効果的だと思います。また、「蛍の光」が教育出版は5年生であります。スコットランド民謡ですが、原語が出ております。外国の曲も原語で覚えると、後々になって、それをまた歌うことができます。私も、大みそかにヨーロッパなどで歌ったことがあります。そういうときに、発音は別にして、覚えていることが有意義なことではないかと感じます。また、教育出版は、ガーシュインの「ラブソディー・イン・ブルー」で、シンフォニック・ジャズという分野を、第一人者の小曽根真さんとともに取り上げています。それから、5年では、ビッグバンドのカウント・ベイシー、そういうジャズに関するものも、これは音楽の必修項目ではないでしょうが、そういうものを捉えていることがすばらしいと思います。一点疑問がありますが、小学校1年で、国語と関連して、小さい「つ」とか「よ」を書くときに、リズムと一緒に覚えるということで、音楽と国語の連携を考えていただきたいと思います。その辺の取扱いはなかなか難しいところがありますので、ぜひ音楽科の先生、ご指導をよろしくお願いいたします。教科書では、音符と休符という形でその音声と語彙と、日本語のリズムということを体得するという形になっています。その辺はぜひ上手く活用していただきたいと思います。

- **教育長** ほかに、ご意見はありますか。
- **浅松委員** 墨田区には音楽鑑賞教室があり、すみだトリフォニーホールを活用してオーケストラを聞いています。教育出版の教科書の28ページから、「オーケストラのコンサートへ」という項目が4ページにわたってあります。細かい楽譜等もありますが、オーケストラの写真が2ページにわたっている点、それから31ページに、透明のラバーをつけて、編成の大きさやそれぞれの配置をわかりやすくしています。他社もオーケストラの主な楽器の紹介はありますが、大きいスケールで取り上げていることは、事前の学習にも大変役に立つと思いました。

- **教育長** それでは、音楽科について採択します。音楽科の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、音楽科の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することに決定します。次に、図画工作科について審議をします。では、指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 図画工作科においては、感性や想像力等を働かせて表現したり鑑賞したりする資質と能力を相互に関連させながら適正できるように対応の改善を図ることや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実が重視されています。図画工作科につきましては、現在使用している教科用図書は、開隆堂出版株式会社です。全2社からの採択をお願いします。
- **教育長** それでは、図画工作科の教科用図書について、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。
- **白石委員** 私は、開隆堂がよいと思いました。開隆堂は、教科書に掲載されている児童の作品がとても多く、完成度が高いです。これは、児童にいろいろな発想を持たせることができ、表現を工夫したり、質を高めたりする手がかりになると思いました。また、道具の使い方、安全面への配慮ですが、巻末の「学びの資料」に写真やイラストを掲載して、用具の扱いについて具体的に示されています。最後に、教員の指導のしやすさについてです。1・2年生の上巻28ページ、29ページにあるように、砂場で造形遊びを行う際、児童の服装が汚れてもよい服装で掲載しています。経験の浅い先生でも、事前の準備で児童に必要な配慮がしやすいと思います。また、準備や片づけで気をつける点が記載されている等、先生が指導する上で丁重な内容となっていると思いました。
- **坂根委員** 白石委員が主なところをおっしゃってくださったので、私からはつけ加えて、申し上げます。どちらも大変すばらしい教科書だと思います。絵の具の道具の使い方に関して言うと日本文教出版は、水彩絵の具の筆洗について、3年の56ページにあります。「ひっせん」とそのままひらがなで書いてあります。何のことかよくわかりませんが、開隆堂3年の上巻、50ページには「筆洗」「水入れ」と、何であるか使い方が詳しく書いてあります。そういう点は評価できると思います。また、のりの使い方について、開隆堂1年の上、「のりの使い方」に「ふたをしておく」とあります。使い方をきちんと書いてあることは、学習の指導として非常に有効だと考えます。鑑賞に関しましても、

両方とも大変すばらしいです。日本文教出版は「教科書美術館」で、開隆堂は「小さな美術館」、それぞれ取り上げているものは違いますが、日本文教出版は「富嶽三十六景」の「神奈川沖浪裏」を載せています。美術館名も載っており、日本国内ならで実物を見ることが可能です。富士美術館へは行くことができますし、国際美術館にも同じものがあります。それから、5・6年の下巻では、俵屋宗達の「風神雷神」もあります。ルネ・マグリットは宇都宮です。モネの「積みわら」は埼玉の近代美術館です。小学生で原画を見る機会はなかなかないですが、東京にいれば見られるようなところが評価できると思います。開隆堂は、1・2年から「見て触って感じて」で、イサム・ノグチや草間彌生があります。3・4年の下巻はワイエスの「絵から聞こえる音」。ワイエスを初めて見て感動したものの1つです。5・6年の下巻では「龍を見る」ということで、狩野探幽の「雲龍図」、それから、海北友松の「龍」、32ページ「富士越の龍」、これは葛飾北斎、と逸品を揃えています。5・6年の上巻には、葛飾北斎の「諸国瀧廻り」、これは常設ではありませんが北斎美術館で見られます。それから、57ページには、建築物として妹島和世さん設計の北斎美術館が載っています。以上が私の推薦する理由です。

- **教育長** それでは、図画工作科の教科用図書は、「開隆堂出版株式会社」を採択することにしたと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、図画工作科の教科用図書は、「開隆堂出版株式会社」を採択することにします。次に、家庭科について審議をします。それでは、指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 家庭科においては、少子高齢社会等の社会の変化や持続可能な社会の構築等に対応し、家族、家庭生活、両親、高齢者、食育、日本の食文化、消費者生活や環境に配慮した生活等に関する内容や学習活動の基礎の充実が重視されています。家庭科につきましては、現在使用している教科用図書は、開隆堂株式会社です。全2社からの採択をお願いします。
- **教育長** それでは、家庭科の教科用図書について、委員の皆さんの意見ををお願いします。
- **阿部委員** 家庭科については、開隆堂を推薦したいと思っています。両社を比較して、東京書籍は開隆堂と比べて少し大きい版になっている分、図や説明が豊富で情報量がとても多いと思われます。しかし、限られた時間内では消化不良を起こすのではないかと少々心配でもあります。他方、開隆堂は、東京書籍と比べ説明は簡潔ですが、簡にして

要を得ているということで、わかりやすくよくまとめられており、小学校の家庭科としては十分な内容ではないかと思います。次に、中身の項目を比べてみました。東京書籍は、5年から6年を2年間にわたって連続して14項目にわたって学ぶスタイルをとっています。開隆堂は5年で11項目、6年で9項目に分かれ、5年生で学んだ学習を6年生で工夫して生活に生かすという考え方でまとめられています。段階的にレベルアップしていく過程の方が、子どもたちにとってもわかりやすく興味が湧くのではないかと考えました。最後に、安全配慮についてどう説明されているか考えてみました。家庭科の作業をする上で、道具や刃物を使う場面などが比較的多くありますが、そういう意味でも安全配慮は極めて重要な視点だと思います。比較しますと、両方とも十字の安全マークで児童が道具を使う上での安全上の注意を促していますが、開隆堂の方がその都度具体的に注意する事項を説明しているので、より効果的ではないかと思いました。特に、調理の学習のところで食物アレルギーへの注意喚起について、開隆堂は注意喚起を促していますが、東京書籍は触れていなかったように思います。食物アレルギーの反応で事故も起こりうるので、ぜひ重要な知識として子どもたちに学ばせてほしいと思います。これらの点を総合評価して、開隆堂をお勧めしたいと思います。

- **浅松委員** 私も開隆堂がふさわしいと思います。家庭生活に関わる技能の習得だけではなく、今日的課題である地球環境に配慮した上での生活の工夫についても大切な視点です。単元の内容構成を比較しました。まず、東京書籍は、課題発見・課題解決、実践活動、評価改善という3つのステップで問題解決するということを、学習全体に取り入れています。図や写真、イラストを多く取り入れていることも特徴だと思います。一方で、開隆堂は、家庭生活における知識、技能の習得に力を入れています。各題の初めにフォトランゲージというものを設けて、写真やイラストから、気づいたこと、そして課題を見つける内容構成となっています。「気づきから学びが始まる」の考え方です。そして、何よりも「生活に生きる確かな力を育む」というコンセプトで、タブレット端末でQRコードを読み取ると、かなりの資料が読み取れ、学習効果の向上のための工夫が図られています。私たちに身近な教科でこういった学習コンテンツは有効と考えます。以上のことから、私は開隆堂を推薦します。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **坂根委員** 一点だけ申し上げます。用語の説明ですが、開隆堂の42ページ「ひとくちメモ」というのが欄外にあります。ここに、「布がほつれる」という説明があります。

「布の切れ端から糸が抜け、ほどけていることをほつれると言います」。同じようなものとして、東京書籍の69ページ「布端」の説明が「言葉」というところにあります。

「織物の布の耳でないところはほつれやすいので、三つ折りなどの始末をする」。説明はしていますが、「ほつれる」とか「布の耳」の説明も必要になると思います。ですので、こういう丁寧な説明をしている開隆堂がすぐれていると私は思います。

- **教育長** それでは、家庭科について採択をします。家庭科の教科用図書は、「開隆堂出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、家庭科の教科用図書は、「開隆堂出版株式会社」を採択することに決定します。次に、保健について審議をします。では、指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 体育科においては、体育や保健の見方、考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって、心身を健康・保持増進し、豊かなスポーツライフの実現を図ることが重視されています。保健教育におきましては、健康な生活、身体の発育・発達、けがの防止、心の健康及び病気の予防について、みずから課題を見つけ、その解決を目指した活動を通して、健康安全の大切さに気づくことができるようにすることが重視されています。保健につきましては、現在使用している教科用図書は、株式会社学研教育みらいです。全5社からの採択をお願いします。
- **教育長** それでは、保健の教科用図書について、委員の皆さんのご意見ををお願いします。
- **白石委員** 私は、光文書院を推薦したいと思います。学習の仕方が、問題解決的な進め方になっています。どの単元も同じ流れで学習していくようになっているので、学習の見通しがつきやすく、学びやすいと思いました。また、「学習のまとめ」では、学習したことをもとにして、これからの自分の生活について考えを書くことができます。学習したことをこれからの生活に生かしていくことが求められているという点で、すぐれているのではないかと思います。そして、防災教育やがん教育、性の学習や共生社会など、今日的な課題にも触れられています。体の成長についての資料も学習の狙いに適しており、子どもにとってわかりやすい資料になっていると思いました。
- **教育長** 私も光文書院を推薦します。まず、情報量が適度であると思います。また、津波や豪雨の際の水の災害について、どう行動すればよいか自分で考える内容が載っています。これは、墨田区の防災の観点から大変重要なことです。先ほど指導室長が説明

していた内容については、各社非常に工夫されていますが、今挙げた2つの理由から、光文書院を薦めます。それでは、ほかにご意見がないようですので、保健について採択をします。保健の教科用図書は、「株式会社光文書院」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、保健の教科用図書は、「株式会社光文書院」を採択することに決定します。次に、外国語科について審議をします。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 外国語科は、令和2年度から開始される新しい教科となります。外国語科においては、外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の言語活動を通して、外国語を使ったコミュニケーションを図るための基礎となる資質、能力を育成することが重視されています。全7社からの採択をお願いします。
- **教育長** それでは、外国語科の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をお聞きたいと思います。
- **坂根委員** 今回の学習指導要領のキーワードに上がっているのが「コミュニケーション」ということと、「聞く」「話す」から段階的に「読む」「書く」を含めた4技能を体系的・総合的に学習するという点だと私は理解しました。改訂前の5・6年生の外国語活動の目標としては、言語や文化の体験的理解やコミュニケーションを図ることです。特に「読む」「書く」という分野は入っていませんでしたが、今回入りました。公開授業の参観等を通して本区の状況を察するに外国語活動を導入して、児童は高い学習意欲を持ち、中学生もそれに連携して、外国語教育に対する積極性も向上してきたのではないかと思います。ただし、問題点としては、音声から文字への接続が円滑にいつているかどうか。そして、日本語と英語との違い、音声の違いだけではなく、発音とつづり字、文構造の理解に関する学習がされていません。その連携をどうするか問題になり、今回の教科化になったと思います。率直に申しますと、いわゆる使える外国語、ここでは英語ですが、それを目指す意図があると理解しています。今回一番悩んだのが外国語科の採択でした。なぜかと申しますと、学習内容が非常に多いのです。一見するとそれほど多いようには見えませんが、正確な発音、イントネーション、語彙数が600から700です。これは3・4年生の外国語活動の分も含めてですが。その他に挨拶やお礼の表現、慣用的表現、それから文の構造が短文、肯定文、否定文、命令文と、疑問文が5W1Hに対

応、代名詞、過去形。過去形は規則動詞、それから不規則動詞が幾つかまじっています。かなりの学習内容です。ここで大事なのは、いわゆる文法の用語を使わずに導入する必要があります。難しいのは、こういう制限のある中で使用場面を設定して活用することです。また、初めての教科書ですので、外国語を得意とする日本人の教員がどのくらいいるかです。墨田区ではネイティブの先生と一緒に授業をしています。その先生との連携がどうなるのか。そして一番難しいのは、文法事項を技能で理解させることです。教科書会社には本当に頭が下がります。その中で、私は啓林館を推薦したいと思います。まず、導入の仕方ですが、単元の並べ方が非常に癖のない形になっています。自己紹介、名前のつづり、誕生日、それから学校生活、これらはどの教科書にも入っていますが、中心になる文が、疑問文ではなくて肯定文であることが特徴的です。疑問文から始まる教科書は多いです。発話を促すには質問をして聞くというのは有効だからです。しかし逆に言うと、いきなり疑問文を扱うのはなかなか大変です。それから、音声に関して申し上げます。最近の教科書にはQRコードがありますが、それをどう活用していくか。今回、教材の音声を聞く機会がありませんでしたので、本を中心に考えています。その辺はご容赦いただきたいと思います。音声の自習はなかなか難しいことですが、やはり音声面でもいろいろな技能を習得する必要があります。国語や算数の教科書で、「リズムに合わせて言いましょ」と、日本語のアクセントとかイントネーションが習得できるようになっていますが、正確であるかどうかは別です。母語でない外国語の音声をどうやって自習したらよいかという疑問もあります。全般的な問題点を申し上げますと、絵カードで単語と結びつけるという項目が各社の教科書にあるのですが、絵の意味のとり方がさっぱりわかりません。柔道をやっている場面で、これは「投げた」という意味か「強い」の意味か、消防士がいたら、消防士という単語そのものか、その人の特性であるかわかりません。特に形容詞ですと、おなかが痛いのかおなかがすいているのか、それもわからないものがあるので、使い方によりますが、児童の理解が難しいと心配しています。今度の改正でメインになるところは書くことですが、国語で3年次にローマ字を導入しています。5年でローマ字から英語のスペリングの習得に移るのですが、スペリングの効率的な指導が現在の学習指導要領ではなされません。英語のスペリングの習得は、日本語と違います。単に文字を覚えるのではなく、1つの語彙を覚えるのです。漢字に漢語の語彙があるのと同じように、英語は英語によるスペリングで1つの語彙なのです。英語教育にはフォニックスという教授法がありますが、それに触れて

いません。また、日本語の音声、音節と、英語の音節の違いについても同様です。カタカナで「ミルク」というのと英語で「milk」というのと違うとか、そういうところを意識しないで始めると、非常に難しくなるのではないかと思います。ほかに、指導の面でカードを用いたため、いろいろな絵や音声と一緒に入ってしまうことで児童が混乱する可能性を危惧しています。いわゆるディスレクシア、読み書き障害になる可能性もあるかもしれません。その辺は、非常に慎重に指導していただきたいと思います。以上は英語学と音声学、しかも日英の両方の音声を熟知した方が指導するのが適切だと思いますが、中学の英語教員でもそういう方はあまり多くないので難しいと思います。

次に単元の内容について申し上げます。状況に応じたコミュニケーションができるというのが指導の要点ですが、子どもの場合、どういう状況かを把握するのは、なかなか難しいです。共通している内容は、例えば学びたい教科、何曜日にどんな科目を学んでいるかです。これは、「What do you have」で始まったりしているのが多いですが、啓林館は、「I study math.」「算数を月曜日に勉強しています」。三省堂は違い、「私はサッカーをしています」ということで、サッカーと教科の関連がいま一つ明確ではないですが、先ほど申し上げたように、導入の仕方が平凡であるのがわかりやすいです。もう一つ、道案内について、これも学習指導要領で必ず入れることになっている項目です。各社、郵便局や学校や駅への行き方を聞いています。小学生ですから、道案内にいっぱい絵があります。博物館、学校、消防署、警察、交番、デパート、動物園、公園、そんなに多くの施設がある町が存在するかは疑問です。もう一つは、道案内で信号が1つもないことです。信号がない道をどうやって案内するかも非常に難しいです。かえって、中学の道案内の方がシンプルです。さらにもう一つ、道案内は教える側にも教わる側にも、頭の中に地図を開く能力が必要です。それは語学とは関係ない能力ですから、道案内で入れること自体が難しいです。中学の教科書では、バスをどこで降りるかがあります。これはよくあると思います。私が考える道案内というのは、大体の方角と方法、歩いて行くのかバスで行くのか。そこへ行くまで時間がどのくらいかかるか。それを聞く、教えるのが基本です。駅を降りて、北口か南口か。それを間違えると反対方向に行きますから、その点、情報を多く入れすぎると効果はどうなるかと考えています。もう一つは、6年に「思い出づくり」「My best memory」の単元があります。行事、運動会、修学旅行がよかったということが入れられています。啓林館は、「enjoy school」ということで、導入の仕方も正当でありながらきちんとしていると思います。最後に申し上げますが、いくつかの表紙や本文の絵や写真、イ

ラストの中心人物が、白人で金髪、碧眼というのが「好み」ではないかと思うことがあります。英語を第1言語として使う国が、必ずしもそういう人で構成されているとは限りません。しかし、伝統的に英語はそういう人たちがしゃべっているという思い込みがあるのではないのでしょうか。また、男女の役割、例えば、お母さんだけが料理を作っている場面があることも気になります。そういうことも含め、平凡だけれども真っ当な導き方をしているという意味で、私は啓林館を推薦します。

- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **白石委員** 私は、東京書籍がよいと思いました。東京書籍は、別冊にPicture Dictionaryがついており、わからない単語があったときに、手元ですぐに調べられます。また、単語数がとても多く、児童がたくさんの単語に触れることができる点もよいところではないかと思いました。各単元で、ステップ1、ステップ2、ステップ3と、インタビューやペアでのやりとりの活動が多く示されていますので、児童がたくさんの会話をする機会があり、力がつくのではないかと思いました。また、発展のページ、「All the horizon」では、日本の文化と外国の文化を比較しているのもよいと思います。5年生の33ページに「世界の服はどんなもの」というところがあり、日本の服と世界の服を比較されているなど、児童の興味関心が高まるのではないかと思いました。また、同じページに「日本のすてき」という、日本で働く外国人にインタビューする内容があり、これはそれぞれの単元に入っています。国際理解を深める内容になっているところもよいと思いました。現在墨田区で使用している中学校の教科書との接続性も考えて、私は東京書籍がよいと思いました。
- **教育長** ほかにありますか。
- **浅松委員** 先ほど坂根委員が道案内に触れられていましたが、小学生時代に英語を使って完璧に道案内をするのはかなり厳しいことだと思います。先ほどから話題になっているコミュニケーション能力、挨拶から入り、声かけをするというところから入っていきませんが、「Go straight」、「Turn left」等、どの教科書も道案内に特化して書かれています。この辺は今後どの教科書も工夫する必要があると思います。2020年に東京オリンピックが開催されるに当たって、墨田区の地域性を鑑みれば、外国の方も大勢来ると思われます。そうした状況の中、外国人とのコミュニケーションのきっかけを、3・4年生は英語活動で一つずつ積み重ねてきました。聞く耳も慣れてきていると思います。そこで、どの程度の道案内ができるか、会話ができるかです。啓林館は5年生80ページ

から道案内があります。身ぶり手ぶりも含めて、まずはボディランゲージである程度意思を伝えていくということを考えていて、一番使いやすいのは啓林館だと思います。道案内に特化してお話ししてしまいましたが、それに伴うコミュニケーションのことも含めて、啓林館を薦めたいと思います。

- **阿部委員** 私も東京書籍と啓林館について比較してみました。結論としては、啓林館の方がよいと思います。東京書籍は大判で鮮明な写真やイラストも多いですが、各ユニットの最初の場面の写真やイラストが、これからその場面で一体何を始めようとしているのか、なかなかつかみにくい印象を受けました。また、個々の内容についても、初めて教科として英語を始める上で、生徒や先生にとって若干難しいのではないかという印象を受けました。一方の啓林館はイラストが多くて写真は少ないですが、各ユニットの初めの場面の設定イラストは、これからどんなことを始めようとしているのかイメージをつかみやすい気がしました。また、その絵の欄外にあるマークがありますが、この単元で何を学ぼうとしているかを端的に示していて、見通しを立てて学習指導する上で理解しやすいのではないかと思います。つけ加えますと、啓林館は各ユニットの後ろの方に「Looking Back」という項目があり、そこで振り返りと進行管理ができるようになっています。それらを踏まえ、全体に平易な印象で好感が持てるということで、私も啓林館をお薦めしたいと思います。
- **教育長** 啓林館というご意見が多いですが、白石委員いかがですか。
- **白石委員** 中学校の接続性と、辞書がついている点を考えました。啓林館の方が、初めて英語を学ぶには、なじみやすくてよいと私も思いました。東京書籍はサイズが大きく、子どもにとってはなじみが持てる教科書だとは思いますが、啓林館で異論はありません。
- **坂根委員** 白石委員から、中学校との接続というお話がありましたが、まず中学校の英語の教科ができて、次に小学校英語ができた、その関係がどうなるのかまだわかりません。それから、中学校で使っているニューホライズンは、私はかなり評価していました、それと小学校の教科書とは大分違います。小学校用のは見た目は子どもがとても喜びそうですが、子どもは、飛びつく一方で飽きっぽいです。語学は続けていくものなので、そういう意味では落ちついて勉強できる方がよいと思います。それから、辞書といっても書いてあるのはほとんどが学校内部のことや動物についてです。辞書は中学で使う内容がメインなので、余り関係がないと思います。もう一点、東京書籍は口語的な表現が多い点が気になりました。初めて学ぶ場合には、できるだけ丁寧な言い方を学んだ

方がよいと感じております。

- **教育長** それでは、外国語科について採択をします。外国語科の教科用図書は、「株式会社新興出版社啓林館」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、外国語科の教科用図書は、「株式会社新興出版社啓林館」を採択することに決定します。次に、「特別な教科 道徳」について審議をします。それでは、指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 特別な教科道徳においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解をもとに、自己を見詰め、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが重視されています。特別な教科道徳につきまして、現在使用している教科用図書は、学校図書株式会社です。全8社からの採択をお願いします。
- **教育長** それでは、まず私からお話をしたいと思います。先ほど指導室長から話がありましたように、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、きちん自己を見つめていくことが非常に重要だと考えています。そのためには、自分で考えて習得することが一番重だと思えます。教科書を選ぶに当たっては、児童を誘導する記述があまりないこと、十分に掘り下げるには時間を要するので、問いが多すぎないことを考慮し、日本文教出版の教科書を推薦します。日本文教出版は、私が今言った要件に合います。また、内容面について、いじめについて取り上げるのが、1年生が学校に慣れてきた非常に良いタイミングで取り扱っており、いじめの取扱いも他社に比べてかなり多いです。最後に、先ほどもお話ししたように、自分で考えるためにはあまり誘導的ではなく、発問も少ないほうがよいです。これは別冊として活用できるものがあります。そして、この別冊をさらに活用するためには、教科書の読み物と別冊が順番どおりである必要があると思います。他社では順番どおりではなく、別冊ノートは、自由に使える感じがします。教科書や別冊ノートでの質問項目だけではなく、児童の実態に合わせて教員が問題を作れるということで、この教科書が一番よいと思います。他社も先ほど必要性を説明した内容はすべてクリアしていますが、発問の少なさといった点から、日本文教出版を選びました。それでは、ほかにご意見はありますか。
- **浅松委員** 私は、日本文教出版のほか、光村出版も適していると思い、比較検討してみました。もちろん、各社とも設問を含めているんな形で学びやすくなっており、教員も

指導しやすくなっていると感じます。それではまず、光村図書の目次を見ると、3つの時期に分けて、それぞれの時期に応じた教材の組立てに配慮しています。加えて、各時期の終わりに「学びの記録」という形で、学習の振り返り、自己評価もできるようになっています。一方、日本文教出版ですが、それぞれの教材には、考えを引き出す3つの発問があります。発問、導入と中心発問、それから振り返りと、その時間の学習に児童や教師が見通しを持つことができ、主体的に学びが促進されるように工夫されています。また、別冊について、自由記述が非常にしやすいと思います。担当教員と保護者もこれを共有することで、本人の心の成長の記録として活用できるのではないかと思います。以上のことから、日本文教出版を推薦します。

- **阿部委員** 私も、日本文教出版がよいと思います。別冊ノートがありますが、ノートに書くという作業で自分の考えや気持ちに気づき、あるいは整理ができ、非常に効果があると思います。別冊があるのは、日本文教出版のほかに学校図書と廣済堂あかつきだと思いますが、先ほど教育長がお話したように、日本文教出版は、いじめの問題については何回にも分けて丁寧に学ばせている点と、情報モラルについても取り上げているので、この点でもすぐれていると思います。一方の学校図書ですが、ノートは非常に効果的ですが、本文とノートの連携が必ずしも十分にとれていない印象を受けました。ノートにいろいろと解説やポイントが出ているので、少し使いにくいと思います。総合的に考えると、日本文教出版を選択するのが一番合理的だという結論になりました。
- **教育長** ほかにありますか。
- **坂根委員** 前回学校図書を採択した際に、幾つかほかの出版社も含めて、出典が明らかであるということが議論の中心の一つになりました。日本文教出版、学校図書、廣済堂あかつきも出典がはっきりしています。出典がはっきりしているということは、情報リテラシー上、非常に大切なことです。今やSNSでリツイートしたものが事実であるかのように出回る風潮がありますので、出典を明らかにしている出版社を選びたいと思います。また、ノートがあるということは非常に効果的だと私も思います。ただ、学校図書はノートの中身が前より小さくなって書きにくいです。単元とノートが一致していないというのは、どこを探すかというゲーム感覚にしてもよいのかなと考えています。一方、やりやすいのは、単元ごとだと思います。日本文教出版に違和感を覚える点があります。3年生で「ブラッドレーの請求書」というのがあります。廣済堂あかつきと学校図書にも「ブラッドレーの請求書」はあります。日本文教出版は、日本に置きかえて

「だいすけへの請求書」となっています。お母さんへお使いをした分、掃除をした分、留守番をした分の請求をしたら、お母さんから反対に「ブラッドレーへの請求書」というものが来ます。学校図書は、お母さんからの請求書は「家やブラッドレーの部屋の掃除代」、「病気のときの看病代」、「薬やおもちゃ代」となっているのですが、日本文教出版は「親切にしてあげた」、「病気のとき見てあげた」、「服や靴を買ってあげた」、「食事をつくってあげた」となっています。こうなると、せっかくのお母さんが別の請求書を出したことが、「あげた」ということで帳消しになったような気がします。これは私の言語観ですが、「何々してあげた」というのは、恩恵を与えたという意味があるので、少しそぐわない気がします。その他の点では、皆さんがおっしゃったことに賛同します。

- **教育長** ほかにありますか。
- **白石委員** 私も日本文教出版がよいと思いました。皆さん言われているように、別冊が3社ほどありますが、中に綴じ込みになっているのでよいと思います。それから、最後に学習内容一覧というのが1年生から6年生まで全部入っています。道徳は非常に難しい授業だと思いますし、今の保護者は、教科書を使っていない時代の方たちだと思います。どういう流れの授業になっているのか、親から見てもこういう道徳ノートが入っていれば一目でわかるのでよいと思いました。
- **坂根委員** 先ほど言い忘れたのですが、日本文教出版の3年で、「富士と北斎」という付録が最後にあります。ここには「富嶽三十六景」の「凱風快晴」と「神奈川冲浪裏」、176ページの「あすを見つめて」というところで「富士越龍図」が出ています。「天が私にあと十年の時を、いや五年の命を与えてくれるのなら、本当の絵描きになってみせるものを」という非常に哲学的な言葉で結んだ絵があるということは非常に評価できると思います。
- **教育長** それでは、「特別な教科 道徳」について採択をします。「特別な教科 道徳」の教科用図書は、「日本文教出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、「特別な教科 道徳」の教科用図書は、「日本文教出版株式会社」を採択することに決定します。それでは、議案第28号は、以上のとおり採択することに決定します。議事の都合により、ここで教育委員会を一旦休憩します。なお、再開は、午

後 2 時35分にします。

(一旦休憩)

- **教育長** ただいまから、教育委員会を再開します。

議決事項第 2・・・29-1～29-2

議案第29号「令和 2 年度使用墨田区立中学校教科用図書採択について」を上程し、指導室長が資料のとおり説明する。

- **教育長** それでは、審議に入る前に、これまでの経過等について確認させていただきます。平成31年 3 月29日付、通知30初教科第33号による文部科学省初等中等教育局教科用図書科からの「令和 2 年度使用中学校用教科用図書の採択について」では、平成30年度検定において新たな図書の申請がなかったため、基本的には、前回の平成26年度検定合格図書等の中から採択を行うこととしています。また、採択に当たっては、現在使用している教科用図書の 4 年間の使用実績を踏まえつつ、平成26年度採択における調査研究等の内容等を活用することとも考えられるとしています。このことを踏まえ、墨田区立小中学校教科用図書採択事務取扱要綱に基づき、教科用図書調査委員会の報告については、前回の採択時に行った報告をもってかえることとし、同様に教科用図書採択検討委員会の報告についても、前回の採択時に行った報告をもってかえることとしました。また、6 月 4 日から 7 月 3 日までの間、ひきふね図書館及び緑図書館内において教科用図書を展示し、ご来場された区民の方々からのご意見をいただきました。5 月16日から 6 月10 日までの間には、学校の教員に向け教科用図書の展示会場を複数設けて展示し、学校ごとの意見を集約して調査報告書を受け取りました。さらに、委員の皆さんには、全ての教科用図書を実際に手にして、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、教科用図書採択検討委員会報告書等にも目を通していただきながら、教科用図書の細部にわたり検討していただいたところです。なお、今回の採択にあたっては、区民の方からのご意見はありませんでした。本日も本会場に教科用図書を用意していますので、必要に応じてご確認いただきながら審議をお願いします。次に、審議の順番についてですが、国語から順に 9 教科15種目について審議をします。なお、各教科の審議の冒頭に、学習指導要領に定める教科ごとの目標等について指導室長から説明があります。

また、時間の都合上、採択の審議中に事務局側で教科用図書入れかえを順次行っていきますので、あらかじめご了承ください。初めに、国語科について審議をします。指導室長、説明をお願いします。

- **指導室長** 国語の教科の目標は、「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てる」となっています。国語につきましては、現在使用している教科用図書は、光村図書出版株式会社です。全5社からの採択をお願いします。
- **教育長** では、国語科の教科用図書について委員の皆さんのご意見ををお願いします。
- **浅松委員** 現行の光村図書を引き続き使用するのがよいと思いました。まず「話す」の項目について、各学年ともスピーチからディスカッションまで系統的に発展させています。その際の具体的な発言例が有効で、生活や他教科に生かせるようにしているのは大変よいと思います。また、文学的文章と説明的文章がバランスよく配置されていると思います。「目標に沿って確認しよう」、そして「読みを深めよう」と学びを進むプロセスになっていて、論理的に読むことを学ぶことができます。多くの非連続型テキストが導入されて、「学習の窓」で情報の役割や取り入れ方がまとめられているので、新しい学習に対応できます。語彙の学習についても、1年で事象をあらわす言葉や心情語、2年で喜怒哀楽をあらわす言葉、3年で思考のためのキーワードが巻末にまとめられ、言葉に対する意識が流されます。最後に、教科書全体として、書体を変える工夫や漢字や文法を問題形式にするなど、生徒が使いやすい配慮が多くされていると思いました。よって、引き続き光村図書を使用するのがよいと思います。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **坂根委員** ただいま浅松委員が主なところを説明してくださいました。私も同意見です。何点か点つけ加えたいところあります。一点目は、1年の222ページの「漢字の成り立ち」というところがあります。ここが、小学校から継続していた漢字についての集大成という形になると思います。専門的に言うと六書となりますが、象形・指事・会意・形声、それに転注・仮借、これを合わせて六書、それが漢字のもとと書いてあります。形声文字は、「音符」、音をあらわす部分と「意符」、意味をあらわす部分に分かれていますとまとめてあります。これで、豊かな語彙の形成ができるという利点があり、また小学校からの連続性があり、しかも大変に高度でありながら、わかりやすいまとめになっ

ていると思います。二点目は、書きおろしの文章が多く、その分野での第一人者の執筆によるものであることです。これは、学習者にとっては非常に有効なことだと思います。先ほども出典のところで申し上げましたが、変に改稿したわけでもなく、子どものために書いたという視点が素晴らしいと思います。最後に申し上げるのは、事実と意見についての記述がはっきりなされていません。これは私の一つの不満であり、これからの教科書について必要とされているところでないかと思います。

- **阿部委員** 私も光村図書をぜひ中学生に使ってもらいたいと思っています。小学校の教科書のときにも申し上げましたが、光村図書は和歌や古典、古文に非常に興味を持たせようという意欲が読み取れます。令和という年号も万葉集から引用されたということで、例えば3年の教科書を見ていくと、古今集の序文まで引用しており、素晴らしいです。とても中身が深いところなので、ぜひ光村図書の教科書をよく読み込んで勉強してほしいと思います。さらに、もう一点つけ加えると、本の世界を広げようということで、関係するいろんな本を読むように誘引しているところも非常によいと思います。
- **教育長** それでは、国語科について採択します。国語科の教科用図書は、「光村図書出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、国語科の教科用図書は、「光村図書出版株式会社」を採択することに決定します。次に、書写について審議をします。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 書写に関する指導事項は、「字形を整え、文字の大きさ、配列などを理解して楷書で書くこと。漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく書くこと。身の周りの多様なものに関心を持ち、効果的に文字を書くこと」などが記されています。書写につきまして現在使用している教科用図書は、光村図書出版株式会社です。全5社からの採択をお願いします。
- **教育長** では、書写の教科用図書について、委員の皆さんのご意見を聞きたいと思います。
- **浅松委員** 光村図書を引き続き使用するのがよいと考えます。まず、1年から3年までが1冊になっているので、学習内容の振り返りや目標が理解しやすく、よいと思います。基本が詳しく説明されており、まず毛筆で点画・筆圧を確認し、次に硬筆に進むという過程は適切であると思います。14ページ、平仮名の筆遣いと字形ということで、もとの

なる漢字によって結びの書き方が違うことの説明や、22ページ、楷書と行書を見開きに並べて配置しています。目で見て、指でなぞって違いを知るなど、生徒の気づきを促すような工夫が見られます。これは主体的な学びにつながると思います。見開きの23ページは、朱の淡墨によって筆遣いが意識しやすい配慮になっています。また、ノート、はがき、のし袋、願書等、実用例が多く、生活に生かせるように考えられています。さらには、コラムとして、生徒の関心を高めるために、書に関する知識を、写真を多用して紹介しています。以上のことから、引き続き光村図書の教科書を使用することを推薦します。

- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **坂根委員** 大変的確な説明をありがとうございました。一点つけ加えます。64ページ、65ページ、日常の書式で、はがきの書き方で、表書き、往復はがきの返信の書き方、年賀状によく使われる言葉などがあります。現代で一番使うのはこういう場面ではないかと思いますので、適切な教材の配置だと考えます。その隣に、都道府県名の行書一覧というのがあります。行書ではこれが日常で一番よく使われるものです。そして、その下に、県の県章やシンボルマークもあります。できれば、墨田区の「墨」というのもあるとよいと思います。ここに載せてくださいとは言いませんが、授業でぜひご指導をお願いしたいと思います。
- **教育長** それでは、書写について採択します。書写の教科用図書は、「光村図書出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、書写の教科用図書は、「光村図書出版株式会社」を採択することに決定します。次に、社会科・地理的分野について審議を行います。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** まず、社会科全体の目標は「広い視野に立って社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」となっています。地理的分野の目標は「日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し、理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土に対する認識を養う」となっています。地理的分野につきまして現在使用している教科用図書は、

東京書籍株式会社です。全４社からの採択をお願いします。

- **教育長** では、社会科・地理的分野の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をお願いします。
- **阿部委員** 地理的分野については、現在使用している東京書籍を引き続き推薦したいと思います。地理的分野は、日本はどういう国なのか、自分たちが住んでいる地域はどんなところか、具体的な資料やデータや地図などを使いながら問題解決型の学習をしていきます。そのために、生徒が地理に関心を持ち、なおかつわかりやすい内容であることが求められると思います。前回の教科書採択で検討された５つのポイント、１番目に領土・領海の問題、２番目に災害の問題、３番目に資源・エネルギーの問題、４番目に身近な地域の課題、５番目に墨田区に関連するテーマの扱い方など、いろいろな点から検討された経緯があります。その際も、東京書籍が各問題についてわかりやすく、バランスよくまとめられていました。現在も、東京書籍が本区の生徒に最も適していると判断します。再度教科書を読んでみましたが、資源エネルギー問題のところで、我が国のエネルギー事情を左右する可能性のあるメタンハイドレートなどの最先端の問題に触れています。生徒に新しい話題をもって、関心を持ってもらう工夫がなされていることもつけ加えたいところだと思います。以上の点から、現行の東京書籍を引き続き推薦したいと思います。
- **教育長** ほかに、ご意見はありますか。
- **白石委員** 私も東京書籍がよいと思います。理由としては、資料活用能力の観点からです。前回の採択にも、区の学習状況調査から、社会科全般に大きな課題があり、資料活用能力など、基礎・基本となる技能・知識が十分に身につけていないという議論がされました。地図やグラフ等資料を丹念に読み取る機会を積極的につくっていくことが重要になっています。東京書籍は、地図やグラフの調べ方、読み方、読み解くポイントなど多く掲載している点から、引き続き東京書籍の使用がよいと思いました。
- **教育長** それでは、社会科・地理的分野について採択します。社会科・地理的分野の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、社会科・地理的分野の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することに決定します。次に、社会科・歴史的分野について審議をします。指導室長、

説明をお願いします。

- **指導室長** 歴史的分野の目標は、「我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てること、歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重する態度を育てること、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせること、そして、身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して、歴史に対する興味や関心を高め、資料を活用して多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てること」となっています。社会歴史的分野につきましては、現在使用している教科用図書は株式会社帝国書院です。全 8 社からの採択をお願いします。
- **教育長** では、社会科・歴史的分野の教科用図書について、委員の皆さんのご意見を聞きたいと思います。
- **阿部委員** 現在使用している帝国書院を推薦したいと思います。生徒に歴史を学ぶことの意味や、おもしろさを理解してもらうため、平易でかつ問題意識を持って、深く掘り下げているような教科書はどれかという観点から検討すると、やはり現在使われている帝国書院の教科書がもっとも適当だと考えます。帝国書院の教科書は、写真や図版が多くてわかりやすく、記述内容もオーソドックスで偏りが見られず、バランスがとれていると思います。帝国書院の特色としては、それぞれの時代の初めに「タイムトラベル」という項目があり、その時代の様子や時代背景を考えさせて課題に入るという工夫がなされています。生徒が問題意識を持って課題解決などの学習を進める上で、興味を引き出す工夫がなされているのもよい点だと思います。一点加えますと、墨田区ゆかりの人物として勝海舟についても比較的詳しく取り上げていますので、子どもたちも関心が湧くと思います。そのような点で、引き続き帝国書院を推薦したいと思います。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **白石委員** 私も帝国書院がよいと思います。理由としては、写真、地図、挿絵の観点からです。前回の採択にもこの観点で議論されています。帝国書院は、写真、地図、挿絵も多く見やすいという意見も出ています。先ほど阿部委員からも「タイムトラベル」について評価されていましたが、私も同様の評価をしています。生徒が歴史に興味を持って学習していくには、引き続き帝国書院の使用がよいと思います。
- **教育長** それでは、社会科・歴史的分野について採択します。社会科・歴史的分野の教科用図書は、「株式会社帝国書院」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

(「異議なし」の声あり)

- **教育長** それでは、社会科・歴史的分野の教科用図書は、「株式会社帝国書院」を採択することに決定します。次に、社会科・公民的分野について審議します。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 公民的分野の目標は、「個人の尊厳と人権の尊重の意義、民主主義に関する理解を深め、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培うこと。民主政治の意義や経済活動、現代の社会生活などについてみずから考えようとする態度を育てること。各国及び各国民の協力の重要性と、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させること。現代の社会的事象に対する関心を高め、さまざまな資料を適切に収集、選択して、多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉え、公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てること」などが挙げられています。公民的分野の現在使用している教科用図書は、教育出版株式会社です。全7社からの採択をお願いします。
- **教育長** 社会科・公民的分野の教科用図書について、委員の皆さんのご意見を願います。
- **阿部委員** 教育出版を引き続き推薦したいと思っています。公民的分野では、これから社会人に育つ過程として、世の中の基本的な仕組みやルールを学ぶことになります。この分野は、いきなり難しい法律や経済の用語が出てきたりするので、生徒が戸惑ったり苦手意識を持たないよう、世の中の仕組みやルールはどういう目的や必要があってできているのか、その背景にある思想や価値観など、基本的な内容をわかりやすく学ばせる必要があると思います。例えば、憲法の国民主権、人権尊重、平和主義、あるいは民主主義に由来する政治制度や裁判制度など、その根底にある考え方を含め、易しく且つニュートラルな立場で学ばせる必要があると思います。そのような学習を経ることで、日々起こってくる社会事象や世界の動向等に、子どもたちが関心を持って資料や新聞を調べ、あるいは自分の意見をまとめたり、他の人と意見交換等をしながら、社会人としての素地を養成することになると思います。そういう意味では、わかりやすく平易な内容であること、ニュートラルな立場でバランスがとれていることなどが求められると思います。そのような観点で考えると、総合的には、現在使っている教育出版がよいと考えます。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。

- **白石委員** 私も教育出版がよいと思います。理由として、アウトプットの観点からお話しします。前回の採択でも、習得した概念を活用して諸事象の意義を解釈させたり、事象間の関連を説明させること、自分の考えを論述させたり、議論などを通してお互いの考えを深めたりすることが重要であると議論になっていました。教育出版は、各章の最後に、「言葉で伝え合う」というコーナーで、情報の入手と活用から始まり、ディベート、シミュレーション、プレゼンテーション等からレポートの作成で終わるまで、系統的に構成されています。したがって、アウトプットの重要性を考え、引き続き教育出版社がよいと思います。それから、「ともに生きる社会を目指して」というページがあり、そこに点字が書かれています。こういうものに触れるのも、子どもたちにとっては非常に大切なことではないかと思います。
- **浅松委員** 小学校6年生の段階で政治を最初に学ぶようになっていますが、そこでの内容補正と、中1、中2と段階を踏んで学習してきて、中3になる頃には図版も含めた教科書以外の資料活用も大変大切になってくると思います。そういった意味で、今のところは、継続して教育出版で構わないと思います。墨田区は授業中に電子黒板等を活用できますので、指導する際の資料活用の配慮も考えていただければと思います。
- **教育長** それでは、社会科・公民的分野について採択します。社会科・公民的分野の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、社会科・公民的分野の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することに決定します。次に、地図について審議します。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 学習指導要領においては、例えば地理的分野の中で、世界のさまざまな地域あるいは日本のさまざまな地域の内容にかかわり、地図の活用に関して記述がされています。また、地図を十分に活用することで、地理的言語を地理学的学習の全般にわたって身につけさせることが大変であると示されています。また、地理的分野の学習だけではなく、歴史的分野や公民的分野の学習においても、調べ学習の資料等としての活用が望まれております。地図につきまして現在使用している教科用図書は、株式会社帝国書院です。全2社からの採択をお願いします。
- **教育長** では、地図の教科用図書について、委員の皆さんのご意見ををお願いします。

- **阿部委員** 現在使われている帝国書院を引き続き推薦したいと思います。領土・領海の地図や写真について、説明が非常にわかりやすく鮮明であることが、まず良い点だと思います。また、地域を学ぶ上で、都心の地図が多く使用されていて、例えば墨田区の八広や京島や文花、立花など、地域の名称が地図に載っています。またスカイツリーや百花園なども載っており、地域に関心を持たせるという点では、非常に使いやすい地図だと思います。そして、資料やデータが新しいことなどに加えて、これまで使い慣れていることでもありますので、帝国書院を引き続き使用していただきたいと思っています。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **白石委員** 私も同じく帝国書院がよいと思います。阿部委員からもお話があったように、地図上で墨田区のことを非常に多く見られます。墨田区に住む子どもたちには、自分の地域が多く出ていることに誇りを持って、地図、そして社会の勉強を進めてもらいたいと思います。
- **坂根委員** 私も帝国書院が妥当だと考えています。私は、帝国書院発行の大人版のような、ワールドアトラスという地図を使っています。地図はどんどん新しくなりますが、後ろに統計が載っていて、例えば人口や面積や貿易額、1人当たりの国民所得等が、10年前どうであったかがその統計によってわかります。また、私が持っている一番古い地図は85年ぐらいのもので、まだソ連の時代でした。そういうものは貴重ですので、地図は、新しくすると同時に古いものも片隅に置いて、比較対象にしていただけたらと考えています。
- **教育長** それでは、地図について採択します。地図の教科用図書は、「株式会社帝国書院」を採用することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、地図の教科用図書は、「株式会社帝国書院」を採択することに決定します。次に、数学科について審議をします。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 数学科の目標は「数学的活動を通して、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する能力を育てる」となっています。数学につきまして現在使用している教科用図書は、株式会社新興出版社啓林館です。全7社からの採択をお願いします。

- **教育長** 数学科の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をお願いします。
- **浅松委員** 引き続き、現在使われている啓林館がよいと思います。啓林館の教科書は、全領域において、基礎的、基本的な事項を重視した内容構成になっています。単元の導入は2ページにわたり、各単元導入時に写真・イラストを使って、例えば1年生の12ページから13ページ、1章、正の数・負の数で、東京のスカイツリーも載っていますが、生徒の興味関心、あるいは見方や考え方を深める工夫が各章の最初にあります。また、章末の学習も、基本の定着を重視しながらもじっくり考えさせる「千思万考」というコーナーがあります。さらに巻末の方の「数学広場」では、学習を深め、生活に生かす工夫をしています。これらによって、常に子どもの個々の学力に応じた指導にも対応できると思います。また、数学ブックという別冊があります。本冊の学習と関連させて活用するわけですが、指導者の適切な支援のもとで探究的な学びに発展させることができれば、大変有効な教材となると思います。以上のことから、引き続き啓林館の教科書を継続することを薦めます。
- **教育長** 私も、引き続き啓林館の教科書を推薦します。数学は、特に問題を解けるようにならなければなりません。積み上げが大きく影響する教科なので、問題の分量が多いことが望ましく、わからないところに戻れるのが効果的だと思います。啓林館は、章の「基本のたしかめ」で、理解が不十分であった問題の該当ページに戻って復習できるようにしてあります。また、標準的なノートのとり方が2ページにわたってわかりやすく記されています。さらに、基礎基本や発展の演習量が多いです。加えて、トピックが多く、生徒が数学に対して興味を持ちやすいということから、啓林館を推薦します。
- **坂根委員** ノートの話が出ましたが、学校公開で中学の数学の授業を参観しまして、ノートのとり方が非常によくなっていると感じます。ノートをきちんととれる、書けることが学力向上につながっており、大変うれしく思います。
- **教育長** それでは、数学科について採択します。数学科の教科用図書は、「株式会社新興出版社啓林館」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、数学科の教科用図書は、「株式会社新興出版社啓林館」を採択することに決定します。次に、理科について審議します。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 理科の目標は、「自然の事物・現象に進んでかわり、目的意識を持って観察・実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然の事物・現象

についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う」となっています。理科につきまして現在使用している教科用図書は、東京書籍株式会社です。全5社からの採択をお願いします。

- **教育長** では、理科の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。
- **白石委員** 引き続き東京書籍がよいと思いました。東京書籍は、1学年の4ページから9ページのように問題解決的な学習の流れを具体的に系統立てて示されています。また、考察の仕方など、文例を用いて丁寧に記載されており、理科が苦手な生徒にとってわかりやすい内容になっていると思います。また、1学年の134ページのように、各単元末に「たしかめ」と「応用」が記載されています。活用編もあるので、学習したことを文章に表現するなど、生徒の実態に応じて対応できる内容が印象的でした。また、墨田区に関わりのある事象も多く扱っています。そして、1学年の192ページ、「フロムジャパン、日本の科学」では、江戸っ子1号について触れています。この江戸っ子1号は、墨田区にある浜野製作所が大きく関わっています。また、3学年の166ページ、167ページでは、見開きにわたってスカイツリーの構造が扱われています。同じく3学年、259ページでは、堤防の桜と防災について、これは墨堤通りの記載となっており、墨田区の生徒が興味を持って学習できるのではないかと思います。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **阿部委員** 私も東京書籍がよいと思います。白石委員から詳しく内容のご説明がありましたので、私からの説明は省略しますが、墨田区の生徒にとって理科は苦手な科目になっているようですので、学力向上の成果を上げる必要があると考えています。そういう意味で、苦手意識を持たないように、とにかくわかりやすく、興味が湧くような内容であるかどうかがとても大切だと思います。その点で、東京書籍は写真やイラストが鮮明でビジュアルなつくりになっており、説明も比較的平易に書かれていると思います。墨田区の生徒には、ぜひ教科書の内容をおろそかにせず、基礎からしっかり学んで、苦手を克服してもらいたいと思っています。
- **教育長** それでは、理科について採択します。理科の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、理科の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することに決定

します。では、次に、音楽（一般）について審議をします。指導室長、ご説明をお願いします。

- **指導室長** 音楽科の目標は、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養うこと」となっています。音楽・一般につきまして現在使用している教科用図書は、株式会社教育芸術社です。全2社からの採択をお願いします。
- **教育長** では、音楽（一般）の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をお願いします。
- **浅松委員** 教育芸術社の教科書を引き続き使用するのがよいと思いました。教育芸術社は、全学年に「音楽学習マップ」を設けて、各学年の内容と教材、各教材と音楽の共通事項の関連のほか、各領域のつながりについて、わかりやすく図にまとめられ、非常に見やすく工夫されています。全体の学年の学ぶことが理解でき、特に教材ごとに共通事項に関するアイコンが明示されているので、学びやすくなっていると思います。また、教科書の中に使われている写真がとても鮮明で美しく、躍動的で臨場感にあふれていると思います。生徒の心を揺さぶり、興味・関心を高め、豊かな感性を育むことにつながる点は大いに評価できると思います。最後に、全般にわたって、学校現場の実情に即した事項をしっかりと踏まえて、教科の目標に沿って、着実かつ効果的に学習を行うという趣旨が明白であることも付け加えておきます。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **阿部委員** 私も浅松委員のご意見に同感で、教育芸術社の本を推薦したいと思います。教育芸術社の本は、極めてバランスがとれた構成であると思います。そして、古典芸能の紹介や写真も鮮明で、図や表が多く使われてわかりやすいことなどから、引き続き教育芸術社がよいと思っています。
- **教育長** それでは、音楽（一般）について採択します。音楽（一般）の教科用図書は、「株式会社教育芸術社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、音楽（一般）の教科用図書は、「株式会社教育芸術社」を採択することに決定します。次に、音楽（器楽）について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

- **指導室長** 器楽の指導事項は、「楽器表現にかかわる知識や技能を得たり、生かしたりしながら、曲に対するイメージを膨らませ、好みや意図を持って表現の仕方を工夫し、演奏すること」となっています。音楽（器楽）につきましては、現在使用している教科用図書は、株式会社教育芸術社です。全2社からの採択をお願いします。
- **教育長** 音楽（器楽）の教科用図書について、委員の皆さんのご意見ををお願いします。
- **浅松委員** 現行の教科書である「教育芸術社」がよいと思います。前半の目次にもありますが、「Let's play instruments」のセクションでは、各楽器の導入部分で、リコーダー、ギター、和楽器5種類、打楽器を取り扱う内容で構成されています。それぞれ楽器の基礎的な知識や奏法について、理解しやすいように、さまざまな角度からとった写真、指使いや弾き方がわかるようになっています。また、生徒の学習意欲、演奏意欲をかきたてるような工夫が大変効果的だと思います。さらに、和楽器を取り上げる際には、我が国を愛する態度を育成できるように、単に楽器の特性や奏法にとどまらず、音の響きや音色や余韻の変化を感じとるような構成にしています。最後に、この教科書をよく見ると、糸閉じになっていて本を開いた状態が継続できるので、楽器奏法に対しての細かい配慮がうかがえます。したがって、現行の教育芸術社の教科書をお薦めします。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **阿部委員** 教育芸術社は、琴や三味線、篠笛、尺八といった古典の芸能や楽器について、極めて適切な写真を載せ、興味が湧くような説明の仕方をしているので、非常によい内容だと思いました。私も教育芸術社の本を推薦します。
- **教育長** それでは、音楽（器楽）について採択します。音楽（器楽）の教科用図書は、「株式会社教育芸術社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。
(「異議なし」の声あり)
- **教育長** それでは、音楽（器楽）の教科用図書は、「株式会社教育芸術社」を採択することに決定します。次に、美術科について審議をします。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 美術科の目標は、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」となっています。美術科につきまして現在使用している教科用図書は、日本文教出版株式会社です。全3社からの採択をお願いします。
- **教育長** では、美術科の教科用図書について、委員の皆さんのご意見ををお願いします。

- **坂根委員** 引き続き、現在使われている日本文教出版を推薦します。素晴らしい点が多くつもあります。各学年の教科書の真ん中の折り込みの部分に特別なテーマがあります。1年生は花が中心で「花の生命」という、クリムトが花を描いたものです。次に、田中一村という日本の画家ですが、ここ20年くらいで知られるようになったすばらしい人の絵も入っています。2年生は、「教科書美術館」というコーナーです。「東へ西へ」と題して東洋と西洋の代表的な作品を並べています。ジャポニズムとアールヌーボーの関連がテーマで、広重の「亀戸梅屋敷」と、それを模したゴッホの「梅屋敷」。真ん中が、北斎の絵「神奈川沖浪裏」の原寸大です。原寸大でも、版画ですからこのぐらいの大きさで見られます。片側には、「凱風快晴」です。墨田の生徒にはなじみのあるものですが、原寸大でこうやって手にとって見られるのは楽しいことですし、ぜひ学校を卒業してもとっておいて利用していただきたいと思います。次に、今話題になっているジャポニズムです。光琳の国宝の「紅白梅図屏風」、それから、クリムトの「アデーレ・ブロッホ＝パウアーの肖像」、こちらにはミュシャです。ミュシャは、音楽の教科書にもスメタナのプラハ音楽祭と関連してミュシャの絵「スラブ叙事詩」が出ています。そういうところとも関連して学ぶことができると思います。3年生になりますと、「刻まれた祈り」ということで、仏像の各形の説明がいろいろあります。これは三十三間堂の折り込みで出ています。3年で肖像画を扱いますが、例えばさりげなくジャコメッティや、ピカソ、絹谷幸二の名画が出ています。それも大変すばらしいことだと思います。区内の子どもたちの描いた肖像画展を見ていると、上手ですが、どうも漫画チック、アニメチックになっています。それは現代の傾向かもしれません。肖像は、単に正面から描くのではなく、いろいろな角度で描いている生徒の作品が載っていることが学習の助けになると思います。とにかくすばらしい教科書で、これが無償で提供されるということは喜ばしいです。ただ、建築が少し不足していると思います。坂茂さんやル・コルビュジエ、ライトのグッゲンハイム美術館、妹島和世さん、それから前川國男、こういったものはありません。また、オリンピック・パラリンピックに関しまして、亀倉雄策さんの東京オリンピックのポスターなど、歴史的にすばらしいものを作品として示してほしいと思います。そして、子どもたちに、ぜひ美術館へ行ってほしいので、それを伝えていただきたいと思います。
- **教育長** 私も、現在使われている日本文教出版の教科書を推薦したいと思います。先ほど坂根委員から作品の紹介がありましたが、生徒の作品も多く載っています。ほかの子

どもたちがどういうものを描いているのかという視点で捉えることができるので、非常によいと思います。また、木工などの技術や技法や鑑賞について、巻末に詳しく載っているので、作品に対する知識が広がっていくと思います。ぜひこの教科書を推薦したいと思います。それでは、美術科について採択します。美術科の教科用図書は、「日本文教出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、美術科の教科用図書は、「日本文教出版株式会社」を採択することに決定します。次に、保健体育科について審議をします。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 保健体育科の目標は、「心と体を一体として捉え、運動や健康、安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持、増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」となっています。中でも、教科用図書を用いた学習が中心となる保健分野では、主として個人生活における健康・安全に関する理解を通して、みずからの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の基礎を養い、実践力の育成を図ることが狙いとなります。保健体育科につきまして現在使用している教科用図書は、株式会社学研教育みらいです。全4社からの採択をお願いします。
- **教育長** 保健体育科の教科用図書について、委員の皆さんからのご意見ををお願いします。
- **白石委員** 引き続き学研教育みらいがよいと思います。まずは、健康に関する今日的な課題について記載されています。102ページには飲酒、104ページには薬物乱用、それから96ページ、98ページにはがんなど、図や表、グラフ、写真などを掲載して、大変わかりやすく説明されていると思います。次に、109ページには、たばこやお酒、薬物などについて、誘われたらどうするかを体験的に学ぶページが設けられています。これも非常によいと思います。また、31ページには、コミュニケーションの方法について紹介されています。今の若い人たちは、コミュニケーションをとるのが余り上手ではないと言われていますので、このような説明があると大変よいと感じました。全体的に写真やイラストの掲載が多く、わかりやすく説明ができていると思います。よって、引き続き学研教育みらいがよいと思います。
- **教育長** 私も学研教育みらいがよいと思います。今日的な課題を取り上げており、特に喫煙や飲酒、薬物などについては、知識だけではなく、対象を深く学ぶために演習形式

になっていることが特徴だと思います。また、喫煙のトラブル対処については、1ページにわたって丁寧な記述がされているので、ぜひ継続してこれを使ってもらいたいと思います。それでは、保健体育科について採択します。保健体育科の教科用図書は、「株式会社学研教育みらい」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、保健体育科の教科用図書は、「株式会社学研教育みらい」を採択することに決定します。次に、技術・家庭科（技術分野）について審議をします。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 技術・家庭科全体の目標は、「生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を育てる」となっています。技術分野の目標は、「実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し、活用する能力と態度を育てる」となっています。技術・家庭科（技術分野）につきまして現在使用している教科用図書は、東京書籍株式会社です。全3社からの採択をお願いします。
- **教育長** 技術・家庭科、技術分野の教科用図書については、まず私から意見を申し上げます。現在使っている東京書籍株式会社を推薦します。東京書籍の教科書は、第1編、2編の、編の最初に、この章で学ぶことに関連する他の教科が出ています。これはすごく学習の助けになります。また、資料が充実しています。そして、学習内容では、目標からまとめまでが一まとめになっていて、見通しを持って学習できます。情報セキュリティでは、10ページにわたって取り扱っています。今日の問題について、さまざまな角度で取り扱うことが必要だと思いますので、東京書籍の教科書を推薦します。
- **阿部委員** 教育長の意見に同感で、東京書籍を推薦したいと思っています。東京書籍の本は、A B判の採用で若干判が大きいことに加え、写真やイラスト・図が非常に鮮明で、懇切丁寧な説明がなされており、わかりやすさが特徴だと思います。また、安全についても比較的丁寧に説明しているところも良い点だと思います。さらに、教育長からご指摘のあった情報化社会の到来に向けて、情報に関する分野の技術、「コンピュータと情報ネットワーク」というところで、インターネットやセキュリティの問題、ネットを利用する際のモラル、著作権の問題にも触れています。そのあたりは、これから到来す

るデジタル時代にふさわしい内容だと思います。

- **教育長** それでは、技術・家庭科（技術分野）について採択します。技術・家庭科（技術分野）の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、技術・家庭科、技術分野の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することに決定します。次に、技術・家庭科（家庭科分野）について審議をします。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 家庭分野の目標は、「衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これらの生活を展望して、課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる」となっています。技術・家庭科（家庭科分野）につきまして現在使用している教科用図書は、東京書籍株式会社です。全3社からの採択をお願いします。
- **教育長** それでは、技術・家庭科（家庭科分野）の教科用図書について、委員の皆さんのご意見ををお願いします。
- **白石委員** 技術・家庭科（家庭科分野）については、現在使用している東京書籍がよいと思います。東京書籍は、14ページに記載されているように、生活の中から課題を見つけ、実践を通して解決し、解決したことを生活に生かしていくという構成になっています。また、28ページからは、中学生に必要な栄養素を掲載しており、32ページからは、何をどれくらい食べればよいか、1日の献立を作成する学習になっています。小学校における学習を踏まえ、食事の重要性、望ましい食習慣の形成、地域の産物など、生徒が家庭や地域と連携をしながら健康で安全な食生活を実践できる内容となっています。さらに、234ページでは、消費者としてさまざまなトラブルに巻き込まれる場合が載っています。万が一の場合の対処法なども紹介されており、わかりやすい内容になっていると思います。そして、204ページ、「幼児の施設に行ってみよう」という項目では、職場体験や幼保小中一貫教育とも関連していて、幼児と触れ合う体験などの学習活動を重視し、家族と家庭の役割、生徒がみずから築くといった構成が、実践的でよいと思います。よって、引き続き東京書籍を使用することが望ましいと思います。
- **教育長** ほかにご意見はありますか。

- **坂根委員** 私も東京書籍を引き続き使用することを望んでいます。教科書には消費生活とは何かとか、カード、デビットカード、プリペイドカード、そういうことは書いてあるのですが、増税に伴い行われる消費税の軽減税率とは何かといった今日的な課題についても指導をお願いしたいと思います。そして、電子マネー、仮想通貨とは何か、また働き方改革や年金についてはメディアで取り上げられていますが、自立と共生を目指すということを、中学生から考えてほしいと思います。英語で言いますと、家庭科はhome economicsですが、そういうことをこの時点で考えていくという視点を持つことも必要ではないかと思います。
- **教育長** それでは、技術・家庭科（家庭科分野）について採択します。技術・家庭科（家庭科分野）の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思います。ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、技術・家庭科（家庭科分野）の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することに決定します。次に、外国語科について審議をします。指導室長、説明をお願いします。
- **指導室長** 外国語科の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うこと」となっています。外国語科につきまして現在使用している教科用図書は、東京書籍株式会社です。全6社からの採択をお願いします。
- **教育長** 外国語科の教科用図書について、委員の皆さんのご意見ををお願いします。
- **坂根委員** 小学校の英語教科書採択に関しても少し触れましたけれども、確かな文法力に基づいた構文力とその理解、それによる適切な使用法の習得でコミュニケーション能力の基礎が養われると考えています。小学校の英語の教科書と比較すると、中学校の英語の教科書は伝統的に教材研究も多くなされていますので、よくまとまっていると思います。学校公開などでも、生徒が意欲的に学ぶ姿勢が見られます。文法についてですが、3人称単数現在や分詞構文を学ぶことでは自体ではなく、文法の理解によってその構文を理解することが大事です。文法は、簡潔に他のものとはっきり区別させることが重要だと考えています。この教科書では、例えば1年生で、まとめと練習というのがあります。单元ごとに、1はbe動詞、2は一般動詞で、be動詞と一般動詞はどう違うか。3番

目に3人称単数現在形のこと書いてあります。3人称という言い方は日本語としてなじみが薄いので、とまどう生徒も多いかと存じます。この教科書では「3人称とは、自分と相手以外のもの」とわかりやすく表現しています。また、説明が大体1ページでまとめられて、余計な内容が入っていません。さらには、代名詞と一緒に教えようとしていません。4は代名詞、5は進行形、6は疑問詞、7は一般動詞の過去と、順序立ててまとめています。次に、語順の導入と確認が適切です。1年の109ページ、基本文「I can skate.」、これを疑問文にするときには、canが太字になっています。また、語順が非常にわかりやすく導入されています。そして、音声や音の変化は、先ほどの学び方の反対のページにまとめて書いてあります。93ページ、「学び方と音の変化」で、消える音、つながる音、変わる音と、非常に簡潔にわかりやすく示してあります。教材に関して1つだけ申し上げますが、1年の110ページに、北斎の「富嶽三十六景」、「神奈川沖浪裏」が出てきます。これは、サキさんという生徒がボストン美術館にミスターブラウンと行く。その美術館の前でブラウンさんと待ち合わせて行う会話が10行ぐらいあります。最後に、3年生では、オリンピック・パラリンピックの招致プレゼンターであった佐藤真海さんのお話、そして、ノーベル平和賞のマララ・ユスフザイさんのスピーチがあります。佐藤真海さんの方は、3年生の資料編で148ページ、マララ・ユスフザイさんは150ページです。いずれも300から500ワードぐらいのものですが、内容もわかりやすいものになっています。

- **教育長** ほかにご意見はありますか。
- **阿部委員** 改めて各社の英語の教科書を確認してみました。現在使用している中で、東京書籍のニューホライズンが、本区の生徒にとって最もふさわしいと思いました。理由ですが、目次に3つのパターン、ユニット、A B C、プレゼンテーションという、習得、活用、発信という繰り返し、この明確な3部構成で繰り返し学習し、基礎を身につけさせるという点がすぐれていると思いました。また、中1では小学校の英語活動との円滑な接続ということで、4ページから10ページのハイ・イングリッシュ1から3として、工夫がなされています。小学校での語彙や音声に慣れ親しむというレベルから、中学生ではgrammarベースの授業への移行を配慮して、このようなコーナーをつくっているのだらうと思いました。なお、全国学力調査で今年から中3の英語が実施されました。ある大学教授の分析コメントが新聞に載っていましたが、今の中3は小学校から英語活動を行い、「話す」・「書く」において、何かを表現しようとする態度に成果が見られる一

方、「話す」では即興のやりとりに対応できない、「書く」では文法の誤りが多かったという課題が、今回の全国学力テストでわかってきたそうです。これは、文法や単語を授業の中で知識として理解していても、それを授業の限られた時間の中で使う活動が足りない、そういった授業のデザインができていないことのあらわれかと思います。このことから、4技能を組み合わせ、生徒自ら英語を使うことを重視した授業にするための工夫が今後不可欠だと思います。4技能の組み合わせを、授業の中で指導者がいかに実現していくかが課題ではありますが、今使われているニューホライズンは、この視点から見ても、適切かと思います。

- **教育長** それでは、外国語科について採択します。外国語科の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、外国語科の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することに決定します。以上で、令和2年度使用中学校教科用図書の採択については、全て終了しました。

議決事項第3・・・30-1～30-2

議案第30号「特別支援学級用教科用図書採択について」を上程し、指導室長が資料のとおり説明する。

- **教育長** ただいまの説明について、何かご質疑、ご意見はありますか。
- **浅松委員** 文部科学省が著作の名義を有する教科用図書と一般図書について、それぞれのぐらにあるか教えてください。
- **指導室長** 文部科学省が著作の名義を有する教科用図書には、知的障害用として、小学校は、国語、算数、音楽が各1種類ずつ、合計10点あります。また、中学校については、国語、数学、音楽が各1種類ずつ、合計3点です。また、東京都教育委員会が発行しました令和2年度使用特別支援教育教科書調査研究資料には、一般図書として、各教科により数は異なりますが、合計で702点の一般図書が掲載されています。
- **教育長** 各学校に教科用図書は多数ありますが、どのような基準で教科用図書を選ぶことになりますか。
- **指導室長** 個々の児童・生徒の障害の状況や興味関心の対象などの実態をもとに、教科

学習における学習効果を高めることを狙いとして、よりふさわしい図書を検討します。
また、保護者の意向に対する配慮も行った上で、家庭でも活用ができる教科用図書を一般図書から選択します。各学校では、これを総合的に判断して、使用する教科用図書を選んでいきます。

- **教育長** それでは、令和２年度に特別支援学級で使用する教科用図書は、児童・生徒の能力及び興味関心等を考慮し、一人一人の実態に合った教科用図書を使用する趣旨から、特別支援学校において使用されている文部科学省から著作の名義を有する教科用図書及び、この特別支援教育教科用図書調査研究資料に記載されている全ての一般図書を、採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、令和２年度に特別支援学級で使用する教科用図書は、特別支援学校において使用されている文部科学省が著作の名義を有する教科用図書及び、この特別支援教育教科用図書調査研究資料に記載されている全ての一般図書を、採択することに決定します。

- **教育長** 以上で、本日の議事は全て終了しましたが、そのほかに、委員の方または事務局から何かありますか。

（「なし」の声あり）

- **教育長** 他になければ、これで教育委員会を閉会します。